

大藏省監督局

銀行課勤務

大藏省第八尋館之丞編述

私立銀行必推乃

全



96-167

結 言

晩近銀行事業ノ發達増進著シク全國既ニ千五百有余ヲ以テ數ヘ尙
ホ續々設立ノ企圖アルヲ見ル盛ンナリト謂ツ可シ然リ而シテ此レ
等業ニ從事スルモ其ノ設立、定款及契約ノ變更手續並ニ一般銀
行ニ關スルトコロノ法規ヲ知悉セサルアラシク其ノ業務ノ進行上
大ニ利害ノ關係ヲ來スアルノミナラス徒ラニ官廳ノ手數ヲ要スル
アルハ予現ニ職ヲ大藏省銀行課員ニ奉シ親シク目撃スルトコロナ
リ其ノ全國當業者ヨリ提出スル各種ノ願書又ハ届書類中或ハ法律
ノ命スル條項ヲ缺キ或ハ緊要ノ款項ヲ脱シテ定規ノ方式ヲ誤リ或
ハ無要ノ事項ヲ掲ケ或ハ據ルナキノ文辭ヲ駢ヘテ反ツテ前後矛盾
ノ條規ヲ作ス等此レ等一應返却或ハ照會スルノ止ムヲ得サル場合

往々ニシテ之レアリ是レ皆ナ法規手續ヲ明ラカニセサルニ職由セ
 スンハアラサル也而シテ右等訂正補修ヲ要スル場合ニ於テヤ地方
 廳ヲ經由シ以テ提出者各自ニ示達シ更ラニ當初ノ手順ヲ盡シテ提
 出セサル可ラサルヲ以テ自然夥多ノ日子ヲ費ヤシ官民相互ノ煩勞
 決シテ尠ナキニアラス就中資本ノ増減ニ際シ認可ヲ要スル場合ニ
 於ケルカ如キ事急速ヲ要スルモノタルニ拘ハラス爲メニ之カ實行
 ニ着手スルヲ得サルハ今日實際見ルトコロノ状態ナリ

予ノ不熟ナル固トヨリ當業者諸子ノ満足ヲ期スルノ任ニ當ラスト
 雖モ平素蒐集セシ資料ニ就キ更ラニ多少實驗シ得タルトコロノモ
 ノヲ併セ長ヲ採リ短ヲ補ヒ私立銀行ニ關スル一般ノ事項ヲ網羅シ
 テ此編ヲ著ハス素ヨリ射利ノ目的ニアラサルヲ以テ周ホク發賣ヲ

ナサス主ラ銀行家諸氏ニ頒タントス世ノ斯業ニ從事スル者此ノ書
 ニ因テ豫メ諒了スルトコロアリ依テ以テ全國其ノ軌ヲ一ニシ官民
 徒勞ノ煩ヲ免カルヘシト云爾

編者識

凡例

- 一 卷中民一〇〇條トアルハ民法第百條ノ畧(以下倣之)
- 一 商トアルハ商法
- 一 銀條トアルハ銀行條例
- 一 銀施則トアルハ銀行條例施行細則
- 一 貯銀條トアルハ貯蓄銀行條例
- 一 貯銀施則トアルハ貯蓄銀行條例施行細則

卷中目錄

第一編 私立銀行現行法規

一 民法

第一編 總則

第二章 法人

第一節 法人ノ設立

第二節 法人ノ管理

第三節 法人ノ解散

第四節 罰則

二 商法

第一編 商ノ通則

第六章 商事會社總則

第一節 合名會社

一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	五	六	十	十	十	十	十	十	十
	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁
	七								
	丁								

二	第二節 合資會社	三十丁
	第三節 株式會社	三十四丁
	第四節 罰則	五十八丁
三	商法施行條例	六十二丁
四	銀行條例	七十一丁
五	銀行條例施行細則	七十三丁
六	貯蓄銀行條例	百十一丁
七	貯蓄銀行條例施行細則	百十二丁
八	銀行合併法	百十七丁
九	銀行合併法施行細則	百二十五丁
十	商法債券發行方	百二十六丁
十一	株式會社債券ニ關スル細則	百二十八丁
十二	供託金計算並營業科目ニ關スル訓令	百三十一丁

十三	供託預金說明ニ關スル訓令	百三十二丁
十四	私立銀行及會社ノ證書ニ役員押用ニ關スル訓令	百三十二丁
十五	銀行並貯蓄銀行出張所代理店ニ關スル訓令	百三十二丁
十六	登記届ニ關スル訓令	百三十三丁
十七	銀行會社官報掲載ニ關スル布告	百三十四丁

第二編 私立銀行設立手續

第一章 合名組織	百三十四丁
----------	-------

出願方法……營業出願書……參考書……會社契約書……認可後ノ手續……無認可營業ノ制裁……社名

第二章 合資組織	百五十二丁
----------	-------

出願方法……營業出願書……參考書……會社契約書……認可後ノ手續……無認可營業制裁

第三章 株式組織	百七十四丁
----------	-------

第一節 發起手續

四

出願方法……設立發起認可願……目論見書……假定款

百七十四丁

第二節 設立手續

百九十九丁

設立出願ノ準備……株主募集……創業總會……出願方法……設立許可願……參考書……株式申込簿……株式申込書……設立許可後ノ手續……登記前事業着手ノ制裁……設立許可有効期限……無認可營業ノ制裁……合名、合資、株式ニ通スル緊要ナル件

第四章

個人組織

二百十二丁

出願方法……營業願……參考書……屋號

第五章

補則

二百十七丁

第一節 貯蓄營業銀行ノ特別規定

二百十七丁

普通銀行ト貯蓄銀行ノ差……貯蓄銀行ノ性質……出願方法……全然貯蓄銀行ノ目論見書……同設立許可願……全假定款……設立許

第二節

他業兼營銀行ノ特別規定

二百四十五丁

他業兼營ノ可否……他業兼營銀行設立發起願……全目論見書……設立許可願……全假定款……出願方法

第三編

定款及契約書變更手續

二百五十五丁

認可ヲ要スル場合認可ヲ要セサル場合……營業科目變更願……資本金増加願……資本金增加理由書……總會決議書……増資ノ二方法……資本金減少願……資本金減少理由書……總會決議書……減資ノ二方法……合名合資會社ノ資本減少……存立時期變更願……

五

- 貯蓄銀行定款變更届……定款及契約書變更届……代理店設置届……
- ……代理店契約書……印鑑届……改印届……登記済届……營業開始
- 届……支店設置届……株金拂込届……取締役交代届……合名合資
- 會社解散届……株式會社解散届……營業廢止届……出願及届出方
- 法……變更効力發生期

参考

明治三十年十月三十一日現在

全國各種銀行々數及資本總額表

第壹編 私立銀行現行法規

○民法

(明治二十九年四月
法律第八十九號)

此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ定ム明治二十三年法律第二十八號民法財産
權財產取得轉讓擔保編ハ此法律發布ノ日ヨリ廢止ス

第一編 總則

第二章 法人

第一節 法人ノ設立

第三十三條 法人ハ本法其他ノ法律ノ規定ニ依ルニ非サレバ成立スルコトヲ得ス

第三十四條 登記、宗族、慈善、學術、技藝其他公益ニ關スル社團又ハ財團ニシテ營利ヲ
目的トシテ官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ法人トナスコトヲ得

第三十五條 營利ヲ目的トスル社團ハ商會社設立ノ條件ニ從ヒ之ヲ法人ト爲スヲ得

前項ノ社團法人ニハ總テ商會社ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十六條 外國法人ハ總テ國ノ行政區畫及ヒ商會社ヲ除ク外其成立ヲ認許セス但

法律又ハ條約ニ依リテ認許セラレタルモノハ此限ニ在ラス
前項ノ規定ニ依リテ認許セラレタル外國法人ハ日本ニ成立スル同種ノ者ト同一ノ私
權ヲ有ス但外國人カ享有スルコトヲ得サル權利及ヒ法律又ハ條約中ニ特別ノ規定ア
ルモノハ此限ニ在ラス

第三十七條 社団法人ノ設立者ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 目的

二 名稱

三 事務所

四 資産ニ關スル規定

五 理事ノ任免ニ關スル規定

六 社員タル資格ノ得喪ニ關スル規定

第三十八條 社団法人ノ定款ハ社員ノ四分ノ三以上ノ同意アルトキニ限り變更スル
コトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニアラス

定款ノ變更ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレハ其効力ヲ生セス

第三十九條 財團法人ノ設立者ハ其設立ヲ目的トスル寄附行為ヲ以テ第三十七條第一
號乃至第五號ニ掲ケタル事項ヲ定ムルコトヲ要ス

第四十條 財團法人ノ設立者ガ其名稱、事務所又ハ理事任免ノ方法ヲ定メスシテ死亡
シタルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

第四十一條 生前處分ヲ以テ寄附行為ヲ爲ストキハ贈與ニ關スル規定ヲ準用ス
遺言ヲ以テ寄附行為ヲ爲ストキハ遺贈ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十二條 生前處分ヲ以テ寄附行為ヲ爲シタルトキハ寄附財産ハ法人設立ノ許可ア
リタル時ヨリ法人ノ財産ヲ組成ス
遺言ヲ以テ寄附行為ヲ爲シタルトキハ寄附財産ハ遺言カ効力ヲ生シタル時ヨリ法人

ニ歸屬シタルモノト看做ス

第四十三條 法人ハ法令ノ規定ニ從ヒ定款又ハ寄附行為ニ因リテ定マリタル目的ノ範
圍内ニ於テ權利ヲ有シ義務ヲ負フ

第四十四條 法人ハ理事其他ノ代理人カ其職務ヲ行フニ付他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

法人ノ目的ノ範圍内ニ在ラツル行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其事項ノ性質ヲ養成シタル社員理事及ヒ之ヲ履行シタル理事其他ノ代理人連帶シテ其賠償ノ責ニ任ス

第四十五條 法人ハ其設立ノ日ヨリ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スコトヲ要ス

法人ノ設立ハ其主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

法人設立ノ後新ニ事務所ヲ移シタルトキハ一週間内ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四十六條 登記スヘキ事項左ノ如シ

- 一 目的
- 二 名稱

三 事務所

四 設立許可ノ年月日

五 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期

六 資産ノ總額

七 出資ノ方法ヲ定メタルトキハ其方法

八 理事ノ氏名、住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ一週間内ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス
登記前ニ在リテハ其變更ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十七條 第四十五條第一項及ヒ前條ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ニシテ官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其許可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第四十八條 法人カ其事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ一週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ同期間内ニ第四十六條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ事務所ヲ移轉シタルトキハ其移轉ノミノ登記ヲ爲ス
スコトヲ要ス

第四十九條 第四十五條第三項、第四十六條及ヒ前條ノ規定ハ外國法人カ日本ニ事務所ヲ設クル場合ニモ亦之ヲ適用ス但外國ニ於テ生シタル事項ニ付テハ其通知ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

外國法人カ始メテ日本ニ事務所ヲ設ケタルトキハ其事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ他人ハ其法人ノ成立ヲ否認スルコトヲ得

第五十條 法人ノ住所ハ其主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第五十一條 法人ハ設立ノ時及ヒ毎年初ノ三箇月内ニ財産目録ヲ作り常ニ之ヲ事務所ニ備ヘ置クコトヲ要ス但特ニ事業年度ヲ設クルモノハ設立ノ時及ヒ其年度ノ終ニ於テ之ヲ作ルコトヲ要ス

社團法人ハ社員名簿ヲ備ヘ置キ社員ノ變更アル毎ニ之ヲ訂正スルコトヲ要ス

第二章 法人ノ管理

第五十二條 法人ニハ一人又ハ數人ノ理事ヲ置クトヲ要ス

理事數人アル場合ニ於テ定款又ハ寄附行爲ニ別段ノ定ナキトキハ法人ノ事務ハ理事ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第五十三條 理事ハ總テ法人ノ事務ニ付キ法人ヲ代表ス但定款ノ規定又ハ寄附行爲ノ趣旨ニ違反スルコトヲ得ヌ又社團法人ニ在リテハ總會ノ決議ニ從フコトヲ要ス

第五十四條 理事ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヌ

第五十五條 理事ハ定款、寄附行爲又ハ總會ノ決議ニ依リテ禁止セラレサルトキニ限リ特定ノ行爲ノ代理ヲ他人ニ委任スルコトヲ得

第五十六條 理事ノ飲ケタル場合ニ於テ遲滞ノ爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ假理事ヲ選任ス

第五十七條 法人ト理事トノ利益相反スル事項ニ付テハ理事ハ代理權ヲ有セス此場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リテ特別代理人ヲ選任スルコトヲ要ス

第五十八條 法人ニハ定款ハ附行爲又ハ總會ノ決議ヲ以テ一人又ハ數人ノ監事ヲ置クコトヲ得

第五十九條 監事ノ職務左ノ如シ

- 一 法人ノ財産ノ狀況ヲ監査スルコト
- 二 理事ノ業務執行ノ狀況ヲ監査スルコト
- 三 財産ノ狀況又ハ業務ノ執行ニ付キ不整ノ態アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ總會又ハ主務官廳ニ報告スルコト
- 四 前號ノ報告ヲ爲ス爲メ必要アルトキハ總會ヲ招集スルコト

第六十條 社團法人ノ理事ハ少クとも毎年一回社員ノ通常總會ヲ開クコトヲ要ス

第六十一條 社團法人ノ理事ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ臨時總會ヲ招集スルコトヲ得

社員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ臨時總會ヲ招集スルコトヲ要ス但此定款ハ定款ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得

第六十二條 總會ノ招集ハ少クとも五日前に其會議ノ目的タル事項ヲ示シ定款ニ定メタル方法ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十三條 社團法人ノ事務ハ定款ヲ以テ理事其他ノ役員ニ委任シタルモノヲ除ク外總會ノ決議ニ依リテ之ヲ行フ

第六十四條 總會ニ於テハ第六十二條ノ規定ニ依リテ豫メ通知ヲ爲シタル事項ニ付テノ決議ヲ爲スコトヲ得但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第六十五條 各社員ノ表決權ハ平等ナルモノトス

總會ニ出席セル社員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ代理人ヲ出タスコトヲ得前二項ノ規定ハ定款ニ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス

第六十六條 社團法人ト或社員トノ關係ニ付キ議決ヲ爲ス場合ニ於テハ其社員ハ表決權ヲ有セス

第六十七條 法人ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス主務官廳ハ何時ニテモ職務ヲ以テ法人ノ業務及ヒ財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第三章 法人ノ解散

第六十八條 法人ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 定款又ハ寄附行為ヲ以テ定メタル解散事由ノ發生
- 二 法人ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能
- 三 破産
- 四 設立許可ノ取消

社団法人ハ前項ニ掲ケタル場合ノ外左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 總會ノ決議
- 二 社員ノ死亡

第六十九條 社団法人ハ社員ノ四分ノ三以上ノ承諾アルニ非サレハ解散ノ決議ヲ爲ス可キヲ得ズ但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニアラス

第七十條 法人ガ其債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ裁判所ハ理事若シテ債權者ノ請求ニ因リ又ハ總會ノ決議ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テ理事ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第七十一條 法人ハ其目的以外ノ事業ヲ爲シ又ハ設立ノ許可ヲ得タル條件ニ違反シ其他公益ヲ害スヘキ行為ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其許可ヲ取消スコトヲ得

第七十二條 解散シタル法人ノ財産ハ定款又ハ寄附行為ヲ以テ指定シタル人ニ歸屬ス定款又ハ寄附行為ヲ以テ歸屬權利者ヲ指定セス又ハ之ヲ指定スル方法ヲ定メザリシトキハ理事ハ主務官廳ノ許可ヲ得テ其法人ノ目的ニ類似セル目的ノ爲メニ其財産ヲ處分スルコトヲ得但社団法人ニ在リテハ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ依リテ處分セラレタル財産ハ國庫ニ歸屬ス

第七十三條 解散シタル法人ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ其清算ノ終了ニ至ルマテ尙ホ存続スルモノト看做ス

第七十四條 法人ガ解散シタルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外理事其清算人ト爲ル但定款若シハ寄附行為ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

第七十五條 前條ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキ又ハ清算人ノ欲ケタル爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第七十六條 重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第七十七條 清算人ハ破産ノ場合ヲ除ク外解散後一週間内ニ其氏名、住所及ヒ解散ノ原因、年月日ノ登記ヲ爲シ又何レノ場合ニ於テモ之ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

清算中ニ就職シタル清算人ハ就職後一週間内ニ其氏名、住所ノ登記ヲ爲シ且ツ之ヲ

主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

第七十八條 清算人ノ職務左ノ如シ

- 一 現務ノ終了
- 二 債權ノ取立及ヒ債務ノ辨済

三 殘餘財産ノ引渡

清算人ハ前項ノ職務ヲ行フ爲メニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第七十九條 清算人ハ其就職ノ日ヨリ二个月内ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但此期間ハ二ヶ月ヲ超ルコトヲ得ス

前項ノ公告ニハ債權者カ期間内ニ申出ヲ爲サルトキハ其債權ハ清算ヨリ除斥セラレヘキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス但清算人ハ知レタル債權者ヲ除斥スルコトヲ得ス
清算人ハ知レタル債權者ニハ各別ニ其申出ヲ催告スルコトヲ要ス

第八十條 前條ノ期間後ニ申出テタル債權者ハ法人ノ債務完済ノ後未ダ歸屬權利者ニ引渡シタル財産ニ對シテノミ請求ヲ爲スコトヲ得

第八十一條 清算中ニ法人ノ財産カ其債務ヲ完済スルニ不足ナルコト分明ナルニ至リタルトキハ清算人ハ直テニ破産宣告ノ請求ヲ爲シテ其旨ヲ公告スルコトヲ要ス
清算人ハ破産管財人ニ其事務ヲ引渡シタルトキハ其任ヲ終ハリタルモノトス

本條ノ場合ニ於テ既ニ債權者ニ支拂ヒ又ハ歸屬權利者ニ引渡シタルモノアルトキハ債權者財人ハ之ヲ取戻スコトヲ得

第八十二條 法人ノ解散及ヒ清算ハ裁判所ノ監督ニ屬ス

裁判所ハ何時ニテモ職權ヲ以テ前項ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲スコトヲ得

第八十三條 清算カ終了シタルトキハ清算人ハ之ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

第四節 罰則

第八十四條 法人ノ理事、監事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上二百圓以下ノ

過料ニ處セラル

一 本章ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

二 第五十一條ノ規定ニ違反シ又ハ財産目録若クハ社員名簿ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

三 第六十七條又ハ第八十二條ノ場合ニ於テ主務官廳又ハ裁判所ノ検査ヲ妨ケタルトキ

四 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

五 第七十條又ハ第八十一條ノ規定ニ反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠タリルトキ

六 第七十九條又ハ第八十一條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

○商法 (明治三十三年四月 法律第三十二號)

第一編 商ノ通則

第六章 商會社及ヒ共算商業組合

商會社總則

第六十六條 商會社ハ共同シテ商業ヲ營ム爲メニ之ヲ設立スルコトヲ得

第六十七條 法律ニ背キ又ハ禁止セラル商業ヲ目的トスル會社ハ初ヨリ無効タリ

若シ會社ノ營業カ公安又ハ風俗ヲ害ス可キトキハ裁判所ハ檢事ノ申立ニヨリ又ハ職

權ニ依リ其會社ヲ以テ之ヲ解散セシムルコトヲ得但シ其命令ニ對シ即時抗告ヲ爲スコ

ト得

第六十八條 法律、命令ニ依リ官廳ノ許可ヲ受ク可キ營業ヲ爲サントスル會社ハ其許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

株式會社ニ關シテハ第三節ノ規定ヲ遵守スルコトヲ要ス

第六十九條 會社ノ設立ハ適當ナル登記及ヒ公告ヲ受クルニ非サレハ第三者ニ對シテ會社タル効ナシ

第七十條 會社ハ社名ヲ設ケ社印ヲ製シ定マリタル營業所ヲ設クルコトヲ要ス

第七十一條 社印ニハ社名ヲ刻シ其印鑑ヲ商業登記簿ニ添ヘテ保存スル爲メ之ヲ第十

八條ニ掲ケタル裁例所ニ差出スコトヲ要ス社印ヲ變更シ又ハ改刻スルトキモ亦此手續ヲ爲ス

第七十二條 社名及ヒ社印ハ官廳ニ宛テタル文書又ハ報告書、株券、手形及ヒ會社ニ於テ權利ヲ得義務ヲ負フ可キ一切ノ書類ニ之ヲ用フ

第七十三條 會社ハ特立ノ財産ヲ所有シ又獨立シテ權利ヲ得義務ヲ負フ又訴訟ニ付キ

原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得

第一節 合名會社

第一款 會社ノ設立

第七十四條 二人以上共通ノ計算ヲ以テ商業ヲ營ム爲メ金錢又ハ有價物又ハ勞力ヲ出資トシテ共有資本ヲ組成シ責任共出資ニ止マラサルモノヲ合名會社ト爲ス

第七十五條 社名ハ總社員又ハ其一人若クハ數人ノ氏ヲ用弁之ニ會社ナル文字ヲ附加可シ

會社若シ現存セル他人ノ營業ヲ引受クルトキハ其舊社名ヲ續用スルコトヲ得ス

第七十六條 社員ノ退社シタル後ト雖モ從前ノ社名ヲ續用スルコトヲ得但退社員ノ氏ヲ社名中ニ續用セントスルトキハ本人ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

第七十七條 會社ハ書面契約ニ因リテ之ヲ設立スルコトヲ得其契約書ハ總社員之承諾ヲ要ス

右ノ規定ハ會社契約ノ變更ニ於テモ亦之ヲ遵守ス

第七十八條 會社ハ設立後十四日內ニ本店及ヒ支店ノ地ニ於テ其登記ヲ受ク可シ

第七十九條 登記及ヒ公告ス可キ事項左ノ如シ

第一 會名會社ナルコト

第二 會社ノ目的

第三 會社ノ社名及ヒ營業所

第四 各社員ノ氏名、住所

第五 設立ノ年月日

第六 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期

第七 業務擔當社員ヲ特ニ定メタルトキハ其氏名

第八十條 前條ニ掲ケタル一箇又ハ數箇ノ事項ニ變更ヲ生シ又ハ合意ヲ以テ變更ヲ爲シタルトキハ七日內ニ其登記ヲ受ク可シ

第八十一條 會社ハ登記前ニ事業ニ着手スルコトヲ得ス之ニ違フトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ其事業ヲ停止ス但シ其命令ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第八十二條 會社其登記ノ日ヨリ六ヶ月內ニ事業ニ着手セサルトキハ其登記及ヒ公告ハ無効ナリ

第二款 會社契約ノ變更

第八十三條 會社契約ハ總社員ニ承諾アルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス其承諾ナキトキハ契約ノ從前ノ規定ニ從フ

第八十四條 會社契約ノ規定ニシテ會社ノ施行セサリシモノハ社員又ハ第三者ニ對シテ其効用ヲ致サシムルコトヲ得ス

第三款 社員間ノ權利義務

第八十五條 社員間ノ權利義務ハ本法及ヒ會社契約ニ因リテ定マルモノトス

第八十六條 會社ノ目的ニ反セサルモ之ニ異ナル業務及ヒ事項ニ付テハ業務擔當ノ任アル社員ノ承諾ヲ要ス

第八十七條 會社契約ノ規定ノ施行ニ關スル事項ハ業務擔當ノ任アル社員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス

第八十八條 會社ノ業務ヲ行ヒ及ヒ其利益ヲ保衛スルニ付テハ各社員同等ノ權利ヲ有シ業務ヲ負フ但會社契約ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第八十九條 社員ノ議決權ハ其出資ノ額ニ應シテ等差ヲ立ツルコトヲ得ス

第九十條 業務擔當ノ任ナキ社員ハ何時テモ業務ノ實況ヲ監視シ會社ノ帳簿及ヒ書類ヲ検査シ且此事ニ關シ意見ヲ述ブルコトヲ得

第九十一條 業務擔當ノ任アル各社員ハ代務ノ委任又ハ解任ヲ爲ス權利アリ

第九十二條 各社員ハ會社ニ對シ正整ナル商人ノ自己ノ事務ニ於テ爲スト同シキ勉勵

注意ヲ爲ス義務アリ其義務ニ背キ會社ニ損害ヲ生セシメタルトキハ之ヲ賠償スルコトヲ要ス

第九十三條 社員ノ差入レタル金貨又ハ有價物ノ出資ハ契約ニ定メタル評價額ヲ附シテ會社ノ財産目録ニ記入シ會社ノ所有ニ歸ス

第九十四條 社員ハ其擔シタル出資ヲ差入ルコト能ハサルトキハ除名セラレタルモノト爲ス

但總社員ノ承諾ヲ得テ他ノ出資ヲ差入ルトキハ此限ニ在ラス

第九十五條 社員其擔シタル出資ヲ差入レタルトキハ會社ハ之ヲ除名スルト會社契約ニ定メタル利息ヲ拂ハシムルトヲ擇ミ尙ホ其執レノ場合ニ於テモ損害賠償ヲ求めルコトヲ得

第九十六條 社員ハ契約上ノ額外ニ出資ヲ増シ又ハ損失ニ因テ減シタル出資ヲ補充スル義務ナシ

第九十七條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其出資又ハ會社財産中ノ持分ヲ減スルコトヲ得ス

第九十八條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ第三者ヲ入社セシメ又ハ第三者ヲシテ己レノ地位ニ代ハラシムルコトヲ得ス

第九十九條 社員ヨリ他人ニ爲シタル持分ノ讓渡ハ會社及ヒ第三者ニ對シテ其効ナシ

第一百條 社員其持分ニ他人ヲ加入セシムルトキハ其關係ハ共算商業組合ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第二百一條 社員が會社ニ出資ヲ爲シ又ハ會社ノ爲メニ立替金ヲ爲シタルトキハ會社
契約ニ定メタル利息ヲ求ムルコトヲ得又社員が業務施行ノ爲メ直接ニ受ケタル損失
ニ付テハ其補償ヲ求ムルコトヲ得

第二百二條 會社契約ニ於テ明示ノ合意ナキ下キハ社員ハ業務施行ノ勤勞ニ付キ其報酬
ヲ求ムルコトヲ得然レトモ勞力ヲ出資ト爲シタル社員其負擔シタル出資外ニ爲シ
タル勞力ニ付テハ相當ノ報酬ヲ求ムルコトヲ得

第二百三條 社員が會社ノ爲メニ受取リタル金銭ヲ相當ノ時日内ニ會社ニ引渡サス又ハ
會社ノ金銭ヲ自己ノ用ニ供シタルトキハ會社ニ對シテ會社契約ニ定メタル利息ヲ拂
ヒ且如何ナル損害ヲモ賠償スル義務アリ

第二百四條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非ザレハ自己ノ計算ニテモ又第三者ノ計算ニ
テモ會社ノ商部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ之ニ與カルコトヲ得ス之ニ背キタルトキ
ハ會社ハ其損害他日其社員ヲ除名シ又ハ其取引ヲ會社ニ引受ケ尙ホ其執レノ場合ニ
於テ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第二百五條 各社員ノ會社ノ損益ヲ共分スル割合ハ契約ニ於テ他ノ標準ヲ定メサルトキ
ハ其出資ノ價額ニ準ス

第二百六條 社員が業務擔當ノ任ナクシテ業務擔當ノ所爲ヲ爲シ又ハ會社ニ對シテ詐欺
ヲ行ヒ又ハ其他會社ニ對シテ主要ノ責務ヲ甚ク欲キタルトキハ會社ハ之ヲ除名シ
且損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第二百七條 社員が會社契約ニ依リ又ハ本法ノ規定ニ依リテ會社ノ爲メニ爲シタル總テ
ノ行爲及ヒ取引ハ各社員互ニ之ヲ承認スル義務アリ

第四款 第三者ニ對スル社員ノ權利義務

第二百八條 會社ハ業務擔當ノ任アル社員ノ明示シテ會社ノ爲メニ爲シ又ハ事實會社ノ
爲メニ爲シタル總テノ行爲ニ因リテ直接ニ權利ヲ得義務ヲ負フ

第二百九條 會社ノ權利ハ業務擔當ノ任アル社員裁判上ト裁判外ト問ハス之ヲ主張シ

第百十條 第三者ニ對スル會社ノ義務ハ第三者ヨリ業務指當ノ任アル各社員ニ對シテ

其應行フ請求ムルコトヲ得

第百十一條 業務指當ノ任アル社員ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ第三者ニ對シテ其効ナ

第百十二條 會社ノ義務ニ付テハ先ツ會社財産之ヲ負擔シ次ニ各社員其全財産ヲ以テ
連帶ニテ之ヲ負擔ス

第百十三條 社員ニ非ズシテ社名ニ其氏ヲ表スルコトヲ承諾シ又ハ會社ノ業務ノ施行
ハ與カリ又ハ事實社員タルノ權利義務ヲ有スル者ハ社員ト同シク連帶無限ノ責任ヲ

第百十四條 商號使用人又ハ代務人ハ其給料ノ全部又ハ一分ヲ一定又ハ不定ノ利息
債權人トシテ之ヲ請求スルコトヲ得

義務ニ付テモ責任ヲ負フ

第百十六條 會社財産ニ屬スル物ハ社員ノ債權者其債權ノ爲メ之ヲ請求スルコトヲ得
ス但差入前ニ於テ其物ニ付キ第三者ノ爲メ權利ヲ設定セラレタルトキハ此限ニ在ラ

第百十七條 社員ノ債權者ハ社員自ラ要求シ得ヘキ利息又ハ配當金ノミヲ會社ニ對シ
テ請求スルコトヲ得

第百十八條 社員ノ持分ハ社員ノ退社又ハ會社解散ノ場合ニ非サレハ之ヲ要求スルコト
ヲ得ス

第百十九條 會社ニ對スル債務ト社員ニ對スル債權ト又會社ニ對スル債權ト社員ニ對
スル債務トノ相殺ハ會社財産ノ分割前ニ在テハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第百十九條 社員ノ持分ヲ減シタル爲メ會社ノ債權者カ其會社財産ヨリ得ヘキ弁償ヲ
減損セラレ又ハ支障セラレタルトキハ減少ノ時ヨリ二年内ニ在テハ其減少ニ對シ
テ異議ヲ述フルコトヲ得

第五款 社員ノ退社

第二百十條 社員ハ會社契約カ有期ナルトキハ總社員ノ承諾ヲ要シ無期又ハ終身ナルトキハ其承諾ヲ要セスシテ任意ニ退社スルコトヲ得

其退社ハ六ヶ月前ニ豫告ヲ爲シタシ上事業年度ノ末ニ限ル但急速ニ退社ス可キ重要ノ事由アルトキハ此限ニ在ラス

第二百十一條 右ノ外社員ハ左ノ諸件ニ因リテ退社ス

第一 除名

第一 死亡但會社契約又ハ總社員ノ承諾ニ依リ相續人其他ノ承繼人死亡者ノ地位ニ代ハル可キトキハ此限ニ在ラス

第二 破産又ハ家産分散

第四 能力ノ喪失但特約ナキトキニ限ル

第二百十二條 社員退社スル毎ニ會社ハ七日内ニ其理由ヲ附シタル登記ヲ受クヘシ

第二百十三條 會社ハ退社員ノ爲メ特ニ作ワタル貸借對照表ニ依リ退社ノ時ノ割合ヲ

以テ其持分ヲ退社員又ハ其相續人若クハ承繼人ニ拂渡スコトヲ要ス

退社前ノ取引ニシテ未タ終了セサルモノハ其終了ノ後之ヲ計算スルコトヲ得

第二百十四條 退社員ノ持分ノ價值ハ特約アルニ非ツレハ其出資ノ何種類タルヲ問ハ

ズ金額ノミニテ之ヲ拂渡ス

勢力ノ出資又ハ其他退社ト共ニ終止スル出資ニ付テハ特約アルニ非ツレハ之ニ對スル報償ヲ爲ス義務ナシ

第二百十五條 退社員ハ退社前ニ係ル會社ノ義務ニ付テハ退社後二ヶ年間ホ仍全財産

ヲ以テ其責任ヲ負フ

第九十八條ノ場合ニ於テ第三者ヲシテ己レノ地位ニ代ハラシメタル者ニ付テモ亦前項ヲ適用ス

第六款 會社ノ解散

第二百十六條 會社ハ左ノ諸件ニ因リテ解散ス

第一 會社存立時期ノ満了

第二 會社契約ニ定メタル解散事由ノ起發

第三 會社員ノ承諾

第四 會社ノ破産

第五 裁判所ノ命令

第六十七條 第六十七條ニ掲ケタル場合ノ外會社其目的ヲ達スルコト能ハス又ハ會社ノ地位ヲ維持スルコト能ハサルノ理由ヲ以テ一人又ハ數人ノ社員ヨリ會社ノ解散ヲ申立ツルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ解散セシムルコトヲ得

會社ノ地位ヲ維持スルコト能ハサル場合ニ於テ會社ノ解散ニ換ヘテ或ル社員ヲ除名ス可キコトヲ他ノ社員ヨリ相當ノ理由ヲ以テ申立ツルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ除名スルコトヲ得

前二項ニ掲ケタル裁判所ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十八條 第六十六條ノ第一號第二號ニ記載シタル場合ニ於テハ總社員又ハ社員ノ一分ノ會社ヲ保續スルコトヲ得但社員ノ一分ニテ保續シタルトキハ其離脱シ

タル社員ハ退社シタルモノト看做ス

第六十九條 會社解散スルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外總社員ノ多數決ヲ以テ清算人一人又ハ數人ヲ任シ七日内ニ解散ノ原因、年月日及ヒ清算人ノ氏名住所ノ登記ヲ受ケ可シ

第七十條 清算人ハ會社ノ現務ヲ終了シ會社ノ義務ヲ履行シ未收ノ債權ヲ行用シ現存ノ財産ヲ賣却ス又清算人ハ清算ノ目的ヲ超エテ營業ヲ保續シ又ハ新ニ取引ヲ爲スコトヲ得又清算人ハ裁判上會社ヲ代理シ且會社ノ爲メ和解契約及ヒ仲裁契約ヲ爲スコトヲ得

第七十一條 清算人ノ權ハ社員之ヲ制限スルコトヲ得ス且重要ナル事由ニ基ク社員ノ申立ニ因リ裁判所ノ命令ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ解任スルコトヲ得ス但其命令ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七十二條 清算人ハ委任事務ヲ履行シタル後社員ニ計算ヲ報告シ第七十五條及ヒ第七十四條ノ規定ニ準シ會社財産ヲ社員ニ分配ス又清算中ト雖モ自由ト爲リタル財

債ハ之ヲ社員ニ分配スルコトヲ得

第三百三十三條 社員ニ分配ス可キ物ハ會社ノ總テノ義務ヲ済了スルニ要セサル會社財
産ニ限ル

第三百三十四條 解散シタル會社ノ商業帳簿及ヒ其他ノ書類ハ社員第三百三十四條ノ規定ニ
從ヒ之ヲ處分ス

第三百三十五條 會社ノ義務ニ對スル社員ノ無限責任ハ其義務ニ付キ五ヶ年未滿ノ時効
ノ定メナキトキニ限り解散後五ヶ年ノ滿了ニ因リテ時効ニ罹ル但債權者カ未タ分配
セラレサル會社財産ニ對シテ請求ヲ爲ストキハ此限ニ在ラス

第二節 合資會社

第三百三十六條 社員ノ一人又ハ數人ニ對シテ契約上別段ノ定ナキトキハ社員ノ責任カ
金額又ハ有價物ヲ以テスル出資ノミニ限ルモノヲ合資會社ト爲ス

第三百三十七條 合資會社ハ本節ニ定メタル規定ノ外總テ合名會社ノ規定ニ從フ

第三百三十八條 合資會社ノ登記及ヒ公告ニハ第七十九條ノ第二號乃至第六號ニ列記シ

タルモノ、外尚ホ左ノ事項ヲ掲クルコトヲ要ス

第一 合資會社ナル事ト

第二 會社資本ノ總額

第三 各社員ノ出資額

第四 無限責任社員アルトキハ其氏名

第五 業務擔當社員ノ氏名

第三百三十九條 社名ニハ社員ノ氏ヲ用ユルコトヲ得ス但無限責任社員ノ氏ハ此限ニ在
ラス又社名ニハ何レノ場合ニ於テモ合資會社ナル文字ヲ附ス可シ

若シ社名ニ社員ノ氏ヲ用ヰタルトキハ其社員ハ此力爲メ當然會社ノ義務ニ對シテ無
限ノ責任ヲ負フ

第四百十條 無限責任ノ社員、業務擔當社員ヲ除ク外社員ハ自己ノ計算又ハ第三者
ノ計算ニテ會社ノ商部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ之ニ與カルコトヲ得

第四百十一條 業務擔當社員ノ選任及ヒ解任ハ總社員四分ノ三以上ノ多數決ニ依ル

第三百四十二條 業務擔當社員ハ會社契約ニ依リ一一定ノ無限責任社員ノミヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第三百四十三條 業務擔當社員ハ裁判上ト裁判外トヲ問ハス總テ會社ノ事務ニ付キ會社ヲ代理スル專權ヲ有ス然レトモ會社契約又ハ會社ノ決議ニ依リテ羈束セラル
數人ノ業務擔當社員アル場合ニ於テ各別ニ業務ヲ取扱フコトヲ得ルモノタリ又ハ其總員若クハ數人共同ニ非サレハ之ヲ取扱フコトヲ得サルモノタリヤハ會社契約又ハ會社ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第三百四十四條 業務擔當社員ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ善意ヲ以テ之ト取引ヲ爲シタル第二者ニ對シテ其効ナシ

第三百四十五條 有限責任社員ハ業務擔當社員ノ認可ヲ得テ其持分ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得此場合ニ於テハ取得者ハ讓渡人ノ權利義務ヲ繼承ス

第三百四十六條 業務擔當社員ハ其業務履行中ニ生シタル會社ノ義務ニ付キ連帶無限ノ責任ヲ負フ

第三百四十七條 前條ニ掲ケタル連帶無限ノ責任ハ業務擔當社員ノ退任後二個年ノ満了ニ因リテ消滅ス

第三百四十八條 業務擔當社員ハ毎年少ナクトモ一回通常總會ヲ召集シ其他業務擔當ノ任アル社員ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ總社員四分一以上ノ申立アルトキハ臨時總會ヲ召集ス可シ

第三百四十九條 總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ少ナクトモ七日前ニ各社員ニ會議ノ目的ヲ通知シ及ヒ提出ス可キ書類ヲ送付スルコトヲ要ス

第三百五十條 事業年度ノ終リタル後直チニ通常總會ヲ開キ其年度ノ貸借對照表及ヒ事業并ニ其成果ノ報告書ヲ社員ニ提出シテ検査及ヒ認定ヲ受ク其認定ハ出席社員ノ多數決ニ依ル

第三百五十一條 臨時總會ニ於テ議ス可キ事項ハ總社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス然レトモ合名會社ニ在テ總社員ノ承諾ヲ要ス可キ事項ハ總社員四分三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス此場合ニ於テハ不同意ノ社員ハ直チニ退社スル權利アリ

第五百二十二條 前條ニ掲ケタル決議ニ要スル定數ノ社員出席セサルトキハ其總會ニ於テ假ニ決議ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其決議ヲ總社員ニ通知シテ再ヒ總會ヲ召集ス其通知ニハ若シ第二ノ總會ニ於テ出席社員ノ多數ヲ以テ第一ノ總會ノ決議ヲ認可シタルトキハ之ヲ有効ト爲ス可キ旨ヲ明告スルコトヲ要ス

第五百二十三條 利息又ハ配當金ハ會社資本額カ損失ニ因リテ減シタル間ハ之ヲ社員ニ拂渡スコトヲ得ス

第三節 株式會社

第一款 總則

第五百十四條 會社ノ資本ヲ株式ニ分テ其義務ニ對シテ會社財産ノミ責任ヲ負フモノヲ株式會社ト爲ス

第五百十五條 株式會社ハ其目的カ商業ヲ營ムニ在ラサルモ商事會社總則、本節及ヒ次節ノ規定ニ從フ

第五百十六條 株式會社ハ七人以上ヲ以テシ且政府ノ免許ヲ得ルニ非サルハ之ヲ設立

スルコトヲ得ス

第二款 會社ノ發起及ヒ設立

第五百十七條 株式會社ハ四人以上ニ非サルハ之ヲ發起スルコトヲ得ス
發起人ハ目論見書及ヒ假定款ヲ作り各自之ニ署名捺印ス
定款ハ本法ノ規定ニ抵觸スルコトヲ得ス

第五百十八條 目論見書ニ記載ス可キ事項左ノ如シ

第一 株式會社ナルコト

第二 會社ノ目的

第三 會社ノ社名及ヒ營業所

第四 資本ノ總額、株式ノ總數及ヒ一株ノ金額

第五 資本使用ノ概算

第六 發起人ノ氏名、住所及ヒ發起人各自ノ引受タル株數

第七 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期

第一百五十九條 發起人ハ會社ヲ設立ス可キ地ノ地方長官ヲ經由シテ目論見書及ヒ假定
款ヲ主務省ニ差出シ發起ノ認可ヲ請フコトヲ要ス

第一百六十條 發起人ハ前條ノ認可ヲ得タルトキハ目論見書ヲ公告シテ株主ヲ募集ス
ルコトヲ得

其公告中ニハ法律ニ規定シタル發起ノ認可ヲ得タル旨及ヒ其認可ノ年月日ト各株式
申込人ニ假定款ヲ展閱セシムル旨トヲ附記ス

第一百六十一條 株式ノ申込ヲ爲スニハ申込人其引受クル株數ヲ株式申込簿ニ記入シテ
之ニ署名捺印ス又其申込ハ署名捺印シタル陳述書ノ送付ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
代人ヲ以テ申込ムトキハ委任者ノ氏名ニ代人其氏名ヲ附記シテ之ニ捺印ス

第一百六十二條 株式ノ申込ニ因リテ申込人ハ會社設立スルニ至レハ定款ニ從ヒ各株式
ニ付テノ拂込ヲ爲ス可キ義務ヲ負フ

第一百六十三條 總株式ノ申込アリタル後ハ發起人ハ創業總會ヲ開ク可シ其總會ニ於テ
ハ少クトモ總申込人ノ半數ニシテ總株金ノ半額以上ニ當ル申込人ノ承認ヲ經テ定款

ヲ確定ス

第一百六十四條 創業總會ニ於テハ創業ノ爲メ發起人ノ爲シタル契約及ヒ出費ノ認否ヲ
議定シ又有價物ノ出費ヲ差入レテ株式ヲ受ク可キ者アルトキハ其價格ヲ議定ス

前項ノ議定ハ少クトモ總申込人ノ半數ニシテ總株金ノ半額以上ニ當ル申込人出席シ
其議決權ノ過半數ニ依リテ之ヲ爲ス

第一百六十五條 其他創業總會ニ於テハ取締役及ヒ監査役ヲ選定ス

第一百六十六條 創業總會ノ終リシ後發起人ハ地方長官ヲ經由シテ主務省ニ會社設立ノ
免許ヲ請フ其申請書ニハ左ノ書類ヲ添フ可シ

第一 目論見書及ヒ定款

第二 株式申込簿

第三 發起ノ認可證

第一百六十七條 會社設立ノ免許ヲ得タルトキハ發起人其事務ヲ取締役ニ引渡ス可シ
取締役ハ速ニ株主ヲシテ各株式ニ付キ少ナクトモ四分一ノ金額ヲ會社ニ拂込マシム

第六十八條 會社ハ前條ニ掲ケタル金額拂込ノ後十四日內ニ目論見書、定款、株式申込簿及ヒ設立免許書ヲ添ヘテ登記ヲ受ク可シ
登記及ヒ公告ス可キ事項ハ左ノ如シ

第一 株式會社ナルコト

第二 會社ノ目的

第三 會社ノ社名及ヒ營業所

第四 資本ノ總額、株式ノ總數及ヒ一株ノ金額

第五 各株式ニ付キ拂込ミタル金額

第六 取締役ノ氏名、住所

第七 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期

第八 設立免許ノ年月日

第九 開業ノ年月日

裁判所ハ會社ヨリ差出シタル書類ヲ登記簿ニ添ヘテ保存ス

第六十九條 會社支店ヲ設ケタルトキハ其所在地ニ於テ亦登記ヲ受ク可シ

第七十條 設立ノ免許ヲ得タル後運クトモ一箇年內ニ登記ヲ受ケサルトキハ其免許ハ効力ヲ失フ第八十一條及ヒ第八十二條ノ規定ハ株式會社ニモ亦之ヲ適用ス

第七十一條 登記前ニ在テハ創業總會ノ承認ヲ經タル義務及ヒ出費ニ付キ發起人、取締役及ヒ株主ニ於テ連帶無限ノ責任ヲ負フ

七十二條 創業總會ノ承認ヲ經サル義務及ヒ出費ニ付テハ發起人ニ於テ仍ホ連帶無限ノ責任ヲ負フ

第三款 會社ノ社名及ヒ株主名簿

第七十三條 社名ニハ株主ノ氏ヲ用ユルコトヲ得ス又商號ニハ株式會社ナル文字ヲ附ス可シ

第七十四條 會社ハ株主名簿ヲ備ヘ之ニ左ノ事項ヲ記載ス

第一 各株主ノ氏名、住所

第二 各株主所有ノ株式ノ數及ヒ株券ノ番號

第三 各株式ニ付キ拂込ミタル金額

第四 各株式ノ取得及ヒ讓渡ノ年月日

第四款 株式

第七十五條 各株式ノ金額ハ會社資本ヲ一定平等ニ分ナタルモノニシテ二十圓ヲ下ルコトヲ得ス又其資本十萬圓以上ナルトキハ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第七十六條 株式ハ一株毎ニ株券一通ヲ作り之ニ其金額、發行ノ年月日、番號、社名、社印、取締役ノ氏名、印及ヒ株主ノ氏名ヲ載ス但定款ニ依リ數株ヲ合シテ一通ノ株券ヲ作ルコトヲ得

第七十七條 株式ハ分割又ハ併合スルコトヲ得ス

第七十八條 株金全額拂込以前ニ於テハ會社ハ假株券ヲ發行シ全額完納ノ後ニ至リ始メテ本株券ヲ發行スルコトヲ得

第七十九條 假株券及ヒ本株券ハ登記前ニ之ヲ發行スルコトヲ得ス

第八十條 登記前ニ爲シタル株式ノ讓渡ハ無効タリ

第八十一條 株式ノ讓渡ハ取得者ノ氏名ヲ株券及ヒ株主名簿ニ記載スルニ非サレハ會社ニ對シテ其効ナシ

第八十二條 株金半額拂込前ノ株式ノ讓渡人ハ讓渡後二個年間會社ニ對シテ其株金未納額ノ擔保義務ヲ負フ

第八十三條 會社ハ株主名簿及ヒ計算ノ閉鎖ノ爲メ公告ヲ爲シテ事業年度毎ニ一个月ヲ超エサル期間株券ノ讓渡ヲ停止スルコトヲ得

第八十四條 拂込ミタル株金額及ヒ會社財産中ノ持分ハ會社解散前ニ於テハ之ヲ取戻サント求ムルコトヲ得ス

第五款 取締役及ヒ監査役

第八十五條 總會ハ株主中ニ於テ三人ヨリ少カラサル取締役ヲ三箇年内ノ時期ヲ以テ選定ス但其時期満了ノ後再選スルハ妨ケナシ

取締役ハ同役中ヨリ主トシテ業務ヲ取扱フ可キ專務取締役ヲ置クコトヲ得然レトモ其責任ハ他ノ取締役ト同一ナリ

第八十六條 取締役ノ代理權及ヒ其權ノ制限ニ付テハ第四百三十三條及ヒ第四百四十四條ノ規定ヲ適用ス

第八十七條 取締役ニ選マル、爲メ株主ノ所有ス可キ株數ハ會社定款ニ於テ之ヲ定ム取締役ノ在任中ハ其株券ノ融通ヲ禁スル爲メ封印シテ之ヲ會社ニ預リ置ク可シ

第八十八條 取締役ハ其職分上ノ責務ヲ盡スコト及ヒ定款並ニ會社ノ決議ヲ遵守スルコトニ付キ會社ニ對シテ自己ニ其責任ヲ負フ

第八十九條 取締役ハ會社ノ義務ニ付キ各株主ニ異ナラサル責任ヲ負フ然レトモ定款又ハ總會ノ決議ヲ以テ取締役ノ在任中ニ生シタル義務ニ付キ取締役カ連帶無限ノ責任ヲ負フ可キ旨ヲ豫メ定ムルコトヲ得其責任ハ退任後二年内ノ滿了ニ因リテ消滅ス

第九十條 取締役ノ更迭ハ其度毎ニ登記ヲ受ク可シ

第九十一條 總會ハ株主中ニ於テ二人以上ノ監査役ヲ二年内ノ時期ヲ以テ撰定ス但其時期滿了ノ後再選スルハ妨ナシ

第九十二條 監査役ノ職分ハ左ノ如シ

第一 取締役ノ業務施行カ法律、命令、定款及ヒ總會ノ決議ニ適合スルヤ否ヤヲ監視スルコト

第二 計算書、財産目録、貸借對照表、事業報告書、利息又ハ配當金ノ分配案ヲ檢查シ此事ニ關シ株主總會ニ報告ヲ爲スコト

第三 會社ノ爲メニ必要又ハ有益ト認ムルトキハ總會ヲ召集スルコト

第九十三條 監査役ハ何時ニテモ會社ノ業務ノ實況ヲ尋問シ會社ノ帳簿及ヒ其他ノ書類ヲ展開シ會社ノ金匱及ヒ其全財産ノ現況ヲ檢査スル權利アリ

第九十四條 監査役中ニ於テ意見ノ分レタルトキハ其意見ヲ總會ニ提出ス

第九十五條 監査役ハ第九十二條ニ掲ケタル責務ヲ欽キタルニ因リテ生シタル損害ニ付キ會社ニ對シ自己ニ其責任ヲ負フ

第九十六條 取締役又ハ監査役カ給料又ハ其他ノ報酬ヲ受ク可キトキハ定款又ハ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第九十七條 取締役又ハ監査役ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得其解任セラレタル者ハ會社ニ對シテ解任後ノ給料若クハ其他ノ報酬又ハ償金ヲ請求スルコトヲ得ス

第六款 株主總會

第九十八條 總會ハ取締役、監査役又ハ其他本法ニ依リテ招集ノ權ヲ有スル者之ヲ招集ス

第九十九條 總會ノ招集ハ會日前ニ其會議ノ目的及ヒ事項ヲ示シ且定款ニ定メタル方法ニ從ヒテ之ヲ爲ス

此規定ハ創業總會ノ招集ニモ亦之ヲ適用ス

第一百條 通常總會ハ每年少クトモ一回定款ニ定メタル時ニ於テ之ヲ開キ其總會ニ於テハ前事業年度ノ計算書、財産目錄、貸借對照表、事業報告書、利息又ハ配當金ノ分配案ヲ株主ニ示シテ其決議ヲ爲ス
取締役ノ提出スル書類ニ付テノ監査役ノ報告書ハ其書類ト共ニ之ヲ提出ス

第一百一條 臨時總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲メ何時ニテモ之ヲ招集スルコトヲ得又總株金ノ少ナクトモ五分一ニ當ル株主ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ申立ツルトキハ亦臨時總會ヲ招集セサルコトヲ得ス

第一百二條 總會ハ本法ニ於テ別段ノ規定アルトキノ外定款ノ定ニ從ヒテノミ決議ヲ爲スコトヲ得定款ニ其定メナキトキハ總株金ノ少クトモ四分一ニ當ル株主出席シ其議決權ノ過半數ニ依リテ決議ヲ爲ス

第一百三條 定款ノ變更及ヒ任意ノ解散ニ付テノ決議ヲ爲スニハ第六十四條ニ定メタル決議ノ方法ニ依ル

第一百五十二條ノ規定ハ株式會社ニモ亦之ヲ適用ス

第一百四條 株主ノ議決權ハ一株毎ニ一箇タルヲ通例トス然レトモ十一株以上ヲ有スル株主ノ議決權ハ定款ヲ以テ其制限ヲ立ツルコトヲ得

第七款 定款ノ變更

第一百五條 會社ハ定款ニ定メアルトキ又ハ總會ノ決議ニ依リテ定款ヲ變更スルコト

ヲ得然レトモ法律ノ規定又ハ政府ヨリ免許ニ附シタル條件ニ違背スルコトヲ得ス

第二百六條 會社資本ノ増加ハ株券ノ金額ヲ増シ又ハ新株券ヲ發行シテ之ヲ爲シ又其減少ハ株券ノ金額又ハ株數ヲ減シテ之ヲ爲スコトヲ得但資本ハ其全額ノ四分一未滿ニ減スルコトヲ得ス

會社ハ債券ヲ發行スルコトヲ得此債券ハ記名ノモノニシテ其金額ニ付テハ第七十五條ノ規定ヲ適用ス

第二百七條 會社資本ヲ減セントスルトキハ會社ハ其減少ノ旨ヲ總テノ債權者ニ通知シ且異議アル者ハ三十日以内ニ申出ツ可キ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

第二百八條 前條ニ掲ケタル期間ニ異議ノ申出アラサルトキハ異議ナキモノト看做ス異議ノ申出アリタルトキハ會社ハ其債務ヲ辨償シ又ハ之ニ擔保ヲ供シテ異議ヲ取除キタル後ニ非サレハ資本ヲ減スルコトヲ得ス

第二百九條 資本ノ減少シタル部分ノ拂戻ヲ受ケタル株主ハ過愆ナキ不知ノ爲メ其減少ニ付キ異議ヲ申出テサル債權者ニ對シテ登記ノ日ヨリ二個年間其受ケタル拂戻ノ

額ニ至ルマテ自己ニ責任ヲ負フ

第二百十條 會社ノ定款中既ニ登記ヲ受ケタル事項ヲ變更シタルトキハ直チニ其變更ノ登記ヲ受ク可シ登記前ニ在テハ其變更ノ効ヲ生セス

營業所ヲ移轉スルトキハ舊所在地ニ於テ移轉ノ登記ヲ受ケ新所在地ニ於テハ新ニ設立スル會社ニ付キ要スル諸件ノ登記ヲ受ク可シ又同一ノ地域内ニ於テ移轉スルトキハ移轉ノミノ登記ヲ受ク可シ

第二百十一條 會社定款ノ變更ノ登記ヲ受ケタルトキハ地方長官ヲ經由シテ主務省ニ其變更ヲ届出ツルコトヲ要ス

第八款 株金ノ拂込

第二百十二條 株金拂込ノ期節及ヒ方法ハ定款ニ於テ之ヲ定ム其拂込ヲ催告スルニハ拂込ノ日ヨリ少ナクトモ十四日前ニ各株主ニ通知スルコトヲ要ス其通知ニハ拂込ヲ爲サ、ル爲メ株主ノ被フル可キ損失ヲ併示ス

第二百十三條 拂込期節ヲ忘リタル株主ハ定款ニ定メタル遅延利息及ヒ其遅延ノ爲メ

ニ生シタル費用ヲ支拂フ義務アリ

第二百十四條 拂込ヲ怠リタル株主カ更ニ少クトモ十四日ノ期間ニ於テ拂込ムヘキ催告ヲ會社ヨリ受ケ仍ホ拂込ヲ爲サ、ルトキハ會社ハ其株主ニ通知シテ其株券ヲ公賣スルコトヲ得

第二百十五條 公賣セラレタル株券ノ從前ノ所有者ハ公賣代金カ既ニ催告ヲ受ケタル拂込金額ニ滿タサルトキハ其不足金及ヒ第二百十三條ニ記載シタル利息並ニ費用ノ支拂ニ付キ仍ホ責任ヲ負フ但剩餘アルトキハ會社ハ之ヲ從前ノ所有者ニ還付ス會社ハ其定款ヲ以テ別ニ違約金ヲ拂フ可キコトヲ定ムルコトヲ得

第九款 會社ノ義務

第二百十六條 會社ハ株金ノ全部又ハ一分ヲ株主ニ拂戻スコトヲ得ス若シ拂戻シタルトキハ其金額ハ會社又ハ其債權者直接ニ之ヲ取戻サント求ムルコトヲ得

第二百十七條 會社ハ自己ノ株券ヲ取得シ又ハ之ヲ質ニ取ルコトヲ得ス但債券ノ辨償

ノ爲メ若クハ其他ノ事由ニ依リテ會社ニ交付セラレ若クハ移屬シタル株券ハ三個月内ニ於テ公ニ之ヲ賣リ其代金ヲ會社ニ收ム可シ

第二百十八條 會社ハ每年少ナクトモ一回計算ヲ閉鎖シ計算書、財産目錄、貸借對照表、事業報告書、利息又ハ配當金ノ分配案ヲ作り監査役ノ檢査ヲ受ケ總會ノ認定ヲ得タル後其財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ公告ス其公告ニハ取締役及ヒ監査役ノ氏名ヲ載スルコトヲ要ス

第二百十九條 利息又ハ配當金ハ損失ニ因リテ減シタル資本ヲ填補シ及ヒ規定ノ準備金ヲ扣取シタル後ニ非サレハ之ヲ分配スルコトヲ得ス
準備金カ資本ノ四分一ニ達スルマテハ毎年ノ利益ノ少ナクトモ二十分一ヲ準備金トシテ積置クコトヲ要ス

第二百二十條 前二條ノ成規ニ依ラスシテ拂出シタル利息又ハ配當金ハ會社又ハ其債權者直接ニ之ヲ取戻サント求ムルコトヲ得

第二百二十一條 利息又ハ配當金ノ分配ハ各株ニ付キ拂込ミタル金額ニ應シ總株主ノ

間ニ平等ニ之ヲ爲ス

五十

第二百二十二條 會社ハ其本店及ヒ各支店ニ株主名簿、目論見書、定款、設立免許書、總會ノ決議書、毎事業年度ノ計算書、財産目錄、貸借對照表、事業報告書、利息又ハ配當金ノ分配案及ヒ抵當若クハ不動産質ノ債權者ノ名簿ヲ備置キ通常ノ取引時間中株主及ヒ會社ノ債權者ノ求ニ應シ展閱ヲ許ス義務アリ

第二百二十三條 諸帳簿檢正ノ爲メ事業年度毎ニ一回一个月ヲ超エサル期間前條ニ定メタル展閱ヲ停止スルコトヲ得

第十款 會社ノ檢査

第二百二十四條 總株金ノ少ナクトモ五分一ニ當ル株主ノ申立ニ因リテ會社營業所ノ裁判所ハ一人又ハ數人ノ官吏ニ會社ノ業務ノ實況及ヒ財産ノ現況ノ檢査ヲ命スルコトヲ得

第二百二十五條 檢査官吏ハ會社ノ金匱、財産現在高、帳簿及ヒ總テノ書類ヲ檢査シ取締役及ヒ其他ノ役員ニ説明ヲ求ムル權利アリ

第二百二十六條 檢査官吏ハ檢査ノ顛末及ヒ其面前ニ於テ爲シタル供述ヲ調書ニ記載シ之ヲ授命ノ裁判所ニ差出スコトヲ要ス

調書ノ謄本ハ裁判所ヨリ之ヲ會社ニ付與シ又株主及ヒ其他ノ者ヨリ手数料ヲ納ムルトキハ其求ニ應シテ之ヲ付與ス

第二百二十七條 主務省ハ何時ニテモ其職權ヲ以テ地方長官又ハ其他ノ官吏ニ命シテ第二百二十四條ニ掲ケタル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一款 取締役及ヒ監査役ニ對スル訴訟

第二百二十八條 總會ハ監査役又ハ特ニ選定シタル代人ヲ以テ取締役又ハ監査役ニ對シテ訴訟ヲ爲スコトヲ得

第二百二十九條 會社資本ノ少ナクトモ二十分一ニ當ル株主ハ亦特ニ選定シタル代人ヲ以テ取締役又ハ監査役ニ對シテ訴訟ヲ爲スコトヲ得但各株主ノ自己ノ名ヲ用非又ハ參加人ト爲リ裁判所ニ於テ其權利ヲ保衛スル權ヲ妨ケス

第十二款 會社ノ解散

五十一

第二百三十條 會社ハ左ノ諸件ニ因リテ解散ス

第一 定款ニ定メタル場合

第二 株主ノ任意ノ解散

第三 株主ノ七人未滿ニ減シタルコト

第四 資本ノ四分一未滿ニ減シタルコト

第五 會社ノ破産

第六 裁判所ノ命令

第二百三十一條 會社解散ノ場合ニ於テハ既ニ始メタル取引ヲ完結シ又ハ現ニ存在スル會社義務ヲ履行スル外其業務ヲ止ム取締役之ニ拘ハラスシテ營業ヲ續行スルトキハ此カ爲メ其全財産ヲ以テ自己ニ責任ヲ負フ

第二百三十二條 會社解散ノ場合ニ於テハ取締役ハ總會ヲ招集シ解散ノ決議ヲ取ル但裁判所ノ命令ニ依リテ解散スル場合ハ此限ニ在ラス

其總會ニ於テハ破産ノ場合ヲ除ク外一人又ハ數人ノ清算人ヲ選定ス

第二百三十三條 前條ニ掲ケタル解散ノ決議又ハ清算人ノ選定ヲ爲サ、ルトキハ裁判所ハ債權者若クハ株主ノ申立ニ因リ又ハ職權ニ依リ其命令ヲ以テ決議ニ換ヘ又ハ清算人ヲ任スルコトヲ得

第二百三十四條 會社ハ破産ノ場合ヲ除ク外決議後七日内ニ解散ノ原由、年月日及ヒ清算人ノ氏名、住所ノ登記ヲ受ケ之ヲ裁判所ニ届出テ又何レノ場合ニ於テモ之ヲ各株主ニ通知シ且地方長官ヲ經由シテ主務省ニ届出ツルコトヲ要ス

第二百三十五條 裁判所ハ解散及ヒ清算ノ實況ヲ監視スル權アリ

第二百三十六條 登記ヲ受クルト共ニ取締役ノ代理權ハ清算人ニ移ル然レトモ取締役ハ清算人ノ求ニ應シ清算事務ヲ補助スル義務アリ

第二百三十七條 登記後ニ爲シタル株式ノ讓渡及ヒ清算ノ目的ノ爲メニセサル財産ノ處分ハ總テ無効タリ

第二百三十八條 取締役カ總會ノ招集又ハ登記ノ届出ヲ爲サ、リシトキハ此カ爲メ會社又ハ第三者ニ生セシメタル損害ニ付キ其全財産ヲ以テ自己ニ責任ヲ負フ

第二百三十九條 解散及ヒ清算ノ費用ハ現在ノ會社財産中ヨリ最モ先ニ之ヲ支拂フモ
ノトス

第十三款 會社ノ清算

第二百四十條 清算人ノ職分ニ付テハ第三百三十條及ヒ第三百三十一條ヲ適用ス

第二百四十一條 清算人ノ職分ノ踐行ニ付テハ總會ヨリ又ハ株主若クハ債權者ノ申立
ニ因リテ裁判所ヨリ清算人ニ訓示ヲ與フルコトヲ得清算人ハ其訓示及ヒ法律ノ規定
ヲ遵守スル責任ヲ負フ

第二百四十二條 會社ノ債權者ノ相當ノ理由ヲ以テ爲シタル申立ニ因ツ總會又ハ事宜
ニ從ヒテ裁判所ハ債權者ノ利益護視ノ爲メ一人又ハ數人ノ代人ヲシテ清算ヲ監査シ
又ハ清算人ニ參加セシムルコトヲ得

第二百四十三條 清算人ハ其選定ノ日ヨリ六十日內ニ會社帳簿ニ依リテ其財産ノ現況
ヲ取調ヘ少ナクトモ三回ノ公告ヲ以テ債務者ニハ其債務ノ辨濟期限ニ至リタル時直
チニ之ヲ辨濟ス可ク又債權者ニハ或ル期間ニ其債權ヲ申出ツ可キ旨ヲ催告スルコト

ヲ要ス但其期間ハ六十日ヲ下ルコトヲ得ス

其公告ニハ債權者期間ニ申出ヲ爲サ、ルトキハ其債權ヲ清算ヨリ除斥セラル、旨ヲ
附記ス然レトモ清算人ハ期間ニ申出テサル債權者ト雖モ其知レタル者ヲ清算ヨリ除
斥スルコトヲ得ス

第二百四十四條 清算人ハ其期間満了前ニ於テハ債權者ニ支拂ヲ爲シ始ムルコトヲ得
ス

第二百四十五條 期間後ニ申出テタル債權者ハ會社ノ債務ヲ濟了シタル後未タ株主ニ
分配セサル會社財産ノミニ對シテ其辨償ノ請求ヲナスコトヲ得

第二百四十六條 清算人ハ清算ノ爲メ株主ヲシテ其未タ全額又拂込マサル株券ニ付キ
拂込ヲ爲サシムル權利アリ

第二百四十七條 清算人ハ必要又ハ有益ト認ムルトキハ何時ニテモ總會ヲ召集スルコ
トヲ得又清算人ハ定款又ハ總會ノ決議ヲ以テ定メタルトキ又ハ總株金ノ少クトモ五
分一ニ當ル株主ヨリ申出ツルトキハ總會ヲ召集スル義務アリ

第二百四十八條 清算人ハ委任事務ヲ履行シタル後總會ニ計算書ヲ差出シテ其認定ヲ求ム

第二百四十九條 清算人ハ前條ニ掲ケタル認定ヲ得タルトキハ會社ノ債務ヲ済了シタル殘餘ノ財産ヲ各株主ニ其所有株數ニ應シ金錢ヲ以テ平等ニ分配ス其分配ハ總債權者ニ辨償シタル時ヨリ三個月ノ滿了ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
株主ハ總會ニ於テ金錢ニ非ラサル物ヲ以テ分配ス可キ決議ヲナシタルトキト雖モ之ヲ受取ル義務ナシ

第二百五十條 清算ノ終リタル後清算人ハ總計算書及ヒ一般ノ事務報告書ヲ總會ニ差出シテ卸任ヲ求ム若シ總會ニ於テ卸任ヲ許サルトキハ裁判所ハ清算人ノ申立ニ因リ其命令ヲ以テ之ヲ許スト否トヲ定ム但其命令ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第二百五十一條 清算人ハ其行爲ニ付キ總會ノミニ對シテ責任ヲ負フ然レトモ其行爲ニ因リ或ル株主ノ一巳ノ權利ヲ害シタルトキハ其株主ハ清算人ニ對シテ其權利ノ承認及ヒ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得

第二百五十二條 清算人ハ卸任ヲ得タル後商業登記簿ニ清算終了ノ登記ヲ受ケ且之ヲ公告ス其公告ニハ清算ニ付キ生シタル會社ニ對スル請求アレハ之ヲ三個月ノ期間ニ主張ス可キ旨ノ催告ヲ附ス其請求アリタルトキハ清算人ニ於テ之ヲ辨了ス

第二百五十三條 清算中ニ現在ノ會社財産ヲ以テ會社ノ總債權者ニ完済シ能ハサルコトノ分明ナルニ至リタルトキハ清算人ハ破産手續ノ開始ヲ爲シテ其旨ヲ公告シ且會社ノ取引先ニ通知ス

此場合ニ於テ既ニ債權者又ハ株主ニ支拂ヒタルモノアルトキハ之ヲ取戻スコトヲ得
清算人カ貸方借方ノ此ノ如キ關係ナルコトヲ知リテ爲シタル支拂ニシテ其受取人ヨリ取戻シ得サルモノニ付テハ債權者ニ對シテ其責任ヲ負フ

清算人ハ破産管財人ニ其事務ヲ引渡シタルトキハ其任ヲ終リタルモノトス
第二百五十四條 總會ノ決議ニ依リテ會社ノ帳簿及ヒ其他ノ書類ノ貯藏ヲ委任セラレタル者ノ氏名、住所ハ清算人ヨリ之ヲ裁判所ニ届出ツ可シ此届出前ニ在テハ清算人其貯藏ノ責任ヲ負フ

第二百五十五條 清算ノ結果即チ左ノ事項ハ清算人ヨリ裁判所ニ届出テ且之ヲ公告ス可シ

第一 支拂又ハ示談ニ因リテ總債權者ニ辨償ヲ爲シタルコト

第二 會社ノ殘餘財産ヲ株主ニ分配シタルコト及ヒ其分配ノ金額

第三 清算費用ヲ辨濟シ及ヒ清算ニ付キ生シタル請求ヲ辨了シタルコト

第四 總會ヨリ又ハ裁判所ノ命令ニ因リテ卸任ヲ得タルコト

第五 會社ノ帳簿及ヒ書類ノ貯藏ニ關スル處置ヲ爲シタルコト

第六 會社ノ株券又ハ債券ノ其効力ヲ失ヒタルコト

其清算ノ結果ハ亦清算人ヨリ地方長官ヲ經由シテ主務省ニ届出ツルコトヲ要ス

第四節 罰則

第二百五十六條 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第一 本章ニ定メタル登記ヲ受クルコトヲ怠リタルトキ

第二 登記前ニ事業ニ著手シタルトキ

第二百五十七條 取締役ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第一 株主名簿ヲ備ヘス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

第二 會社解散ノ場合ニ於テ總會ノ招集又ハ株主ヘノ通知ヲ怠リタルトキ

第二百五十八條 取締役ハ左ノ場合ニ於テハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル

第一 第二百十六條ノ規定ニ反シ株金ノ全部又ハ二分ヲ拂戻シタルトキ

第二 第二百十七條ノ規定ニ反シ會社ノ爲メ其株券ヲ取得シ又ハ質ニ取り又ハ公

賣セサルトキ

第三 第二百十八條又ハ第二百十九條ノ規定ニ反シ利息又ハ配當金ヲ株主ニ拂渡シタルトキ

第四 第二百二十五條ノ場合ニ於テ會社ノ金匱、財産現在高、帳簿及ヒ總テノ書類ノ檢査ヲ妨ケ又ハ求メラレタル説明ヲ拒ミタルトキ

合資會社ノ業務擔當社員ヲ第五十三條ノ規定ニ反シ利息又ハ配當金ヲ社員ニ拂渡

シタルトキハ亦本條ニ定メタル罰則ヲ之ニ適用ス

第二百五十九條 株式會社ノ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處セラル

第一 第二百四十三條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

第二 第二百五十三條ノ規定ニ反シ破産手續ノ開始ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

第二百六十條 株式會社ノ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル

第一 第二百四十四條ノ規定ニ反シ債權者ニ支拂ヲ爲シ始メタルトキ

第二 第二百四十九條ノ規定ニ反シ株主ニ分配ヲ爲シタルトキ

第二百六十一條 前數條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但其命令ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

過料ノ辨納ニ付テハ業務擔當ノ任アル社員、取締役又ハ清算人連帶シテ其責任ヲ負フ

第二百六十二條 業務擔當ノ任アル社員、取締役、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テ

ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處セラレ情重キトキハ罰金ニ併セ一年以下ノ重禁

錮ニ處セラル

第一 官廳又ハ總會ニ對シ書面若クハ口頭ヲ以テ會社ノ財産ノ現況若クハ業務ノ

實況ニ付キ故意ニ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ不正ノ意ヲ以テ其現況若クハ實況ヲ隱

蔽シタルトキ

第二 公告ノ中ニ詐偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

前ニ掲ケタル者ノ外會社ノ他ノ役員及ヒ使用人カ之ト共ニ犯シタルトキハ亦右ノ罰

ニ處セラル

第二百六十三條 發起人カ株式申込ニ付キ詐偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ二十圓以上二

百圓以下ノ罰金ニ處セラル

第二百六十四條 前二條ニ掲ケタル罰ニ處スルニハ刑事裁判上ノ手續ヲ以テス

○商法施行條例

(明治三十三年八月)
法律第五十九號

六十二

第一條 商法第二十六條、第二十九條及第二百十條ニ定メタル一地域トハ各市町村ノ一區域ヲ謂ヒ市町村制ヲ行ハサル地方ニ在テハ從來ノ宿驛町村等ノ一區域ヲ謂フ一地域内ニ二箇以上ノ區域判所アルトキハ其内一箇所ヲ以テ登記簿ヲ取扱フ所トス其裁判所ハ司法大臣之ヲ指定ス

第二條 會社ニ非スシテ商業ヲ營ム者ハ其商號ニ會社ノ文字ヲ用ユルコトヲ得ス又從來之ヲ用ユル者ハ商法實施ノ日ヨリ三個月内ニ之ヲ改ム可シ

前項ノ規定ニ違フ者ハ地方裁判所ノ命令ヲ以テ二十圓以下ノ過料ニ處ス

第三條 商法第五十九條、第六十六條、第六十八條ノ規定ニ依リテ官廳ニ差出ス書類ハ公證人ノ認證ヲ受ケタル謄本ヲ以テスルコトヲ得

公證人謄本認證ノ依頼ヲ受ケタルトキハ一件ニ付キ金十錢ノ手数料若シ認證ト共ニ謄寫ノ依頼ヲ受ケタルトキハ公證人規則第六十五條ノ謄本手数料ヲ受クルコトヲ得

第四條 削除

第五條 商法實施前ヨリ既ニ設立シタル各會社ハ商法實施ノ日ヨリ六個月内ニ商法第七十八條 第三百二十八條、第六十八條ニ準シテ登記ヲ受ク可シ之ヲ怠リタルトキハ商法第二百五十六條ノ過料ニ處シ且地方裁判所ノ命令ヲ以テ其營業ヲ差止ム但其命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六條 前條ノ期限内ニ登記ヲ受ケタル既設會社ハ其期限經過ノ時ヨリ第三者ニ對シテ會社タルノ効ヲ失フ

第七條 商法第八十一條ノ規定ハ既設會社ニ之ヲ適用セス

第八條 既設會社ハ從來ノ商號ヲ續用スルコトヲ得但商法第一百三條及ヒ第三百二十九條第二項ノ規定ハ商法實施ノ日ヨリ三個月ノ後既設會社ノ社名ニモ之ヲ適用ス

既設會社ノ社名ニハ其會社ノ種類ニ從ヒ合名會社合資會社又ハ株式會社ノ文字ヲ附ス可シ

但特ニ法律ヲ以テ定メタル株式會社ハ附記スルヲ要セス(廿六年法律第十八號)

六十三

第九條 削除

六十四

第十條 既設株式會社ハ商法第百五十六條ノ免許ヲ受クルコトヲ要セス

既設株式會社ハ商法實施ノ日ヨリ六个月内ニ地方長官ヲ經山シテ定款ヲ主務省ニ差
出シ其定款ノ認可ヲ受ク可シ但其定款ニ法律命令ニ反スル事ヲ掲ケタルモノハ之ヲ
改正スルニ非サレハ認可スルノ限ニ在ラス

從來官許ヲ得テ設立シタル株式會社ニハ前項ノ規定ヲ適用セス但開置又ハ人民ノ相
對ニ任ス等ノ指令ヲ得テ設立シタルモノハ此限ニアラス

本條第二項ニ依リ認可ヲ受ク可キ株式會社ニ在テハ第五條ノ登記期限ハ其認可ヲ得
タル日ヨリ起算ス

右ノ認可ヲ得タル日ヨリ六个月内ニ登記ヲ受ケサルトキハ其認可ハ効力ヲ失フ

第十一條 既設株式會社ハ其株式ノ金額商法第百七十五條ノ規定ニ反スルモ定款ノ定
ニ依ルコトヲ得

第十二條 既設株式會社ハ其定款ニ於テ第一回ノ株金拂込ヲ四分一以下ニ定メタルト

キハ商法第百六十七條第二項ノ規定ニ反スルモ其定款ノ定ニ依ルコトヲ得

第十三條 既設株式會社ノ創業ニ付テノ義務及ヒ出費ニシテ會社ノ承認ヲ經タルモノ

ハ第五條ノ登記ヲ受ケサル前ニ於テモ商法第百七十一條ノ規定ニ拘ハラヌ會社ニ於
テ之ヲ負擔ス

第十四條 既設株式會社ノ既ニ發行シタル株券ハ商法第百七十六條ニ反スルモノ有ル
モ之ヲ改ムルコトヲ要セス

第十五條 既設株式會社ニ於テ株金金額ノ拂込前ニ發行シタル株券ハ其金額拂込ニ至
ルマテハ之ヲ假株券ト看做ス

第十六條 既設株式會社ノ株券ニシテ商法實施前ヨリ株式取引所又ハ取引所ニ於テ既
ニ賣買シ來リタルモノ及ヒ既ニ債權ノ擔保ニ供シタルモノニ付テハ商法第百八十條
ノ規定ヲ適用セス

第十七條 既設株式會社ノ株式ノ讓渡人ニ付テハ商法第百八十二條ノ規定ハ商法實施
ノ日ヨリ二個年間之ヲ適用セス

六十五

第十八條 既設株式會社ニ於テ既ニ其定款ヲ以テ株主ノ議決權ニ制限ヲ立テタルモノ
ハ商法第二百四條ノ規定ニ反スルモ其定款ニ從フコトヲ得

第十九條 商法第七十七條第一項ノ規定ハ既設會社ニ之ヲ適用セス

第二十條 商法及ヒ本條例ニ依リ發スル命令書ヲ送達スル場合ニ於テハ其手續ハ民事
訴訟法ノ手續ニ從フ

第二十一條 商法第六十七條第二項、第八十一條、第二百二十七條、第三百一十一條、第二
百三十三條、第二百五十條及ヒ第二百六十一條并ニ本條例第二條及ヒ第五條ニ依リ裁
判所ニ於テ命令ヲ發スルトキハ當事者ヲシテ説明ヲ爲サシムル爲メ之ヲ裁判所ニ呼
出スル通例トス但當事者欲席スルモ命令書ハ之ヲ發スルコトヲ得

第二十二條 商法第六十七條第二項、第八十一條、第二百二十七條及ヒ第二百六十一條并
ニ本條例第二條及ヒ第五條ニ依リ命令ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ豫メ其旨ヲ檢事
ニ通知ス可シ

檢事ハ口頭又ハ書面ヲ以テ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十三條 檢事ハ前條第一項ノ場合ニ於ケル命令ニ付キ其執行ノ責ニ任ス

第二十四條 商法及ヒ本條例ニ依リ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ其期間
ハ裁判書ノ送達ヲ受ケタル日ノ翌日又ハ裁判ノ言渡ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ起算シ
テ七日トス

第二十五條 前條ニ掲ケタルモノ、外抗告ニ關スル手續ニ付テハ民事訴訟法第四百五
十五條、第四百六十條第一項第二項、第四百六十五條及ヒ第四百六十六條第一項第二
項第四項ヲ除ク外總テ同法第三編第三章ノ規定ヲ準用ス

第二十六條 外國ニ於テ支拂ヲ爲ス可キ手形ニハ捺印スルコトヲ要セス

第二十七條 商法第七百九十條ニ掲ケタル裁判所役員ハ執達吏トス(第二十八條ヨリ第三十
條ニキリ以テ
特ニ書ク)

第三十五條 司法大臣ハ各地方裁判所ノ意見ヲ聽キ其所轄地方ノ需用ニ應シテ破産管
財人ヲ命シ地方裁判所ハ之ニ依リ破産管財人名簿ヲ作ル可シ

第三十六條 破産管財人タルノ命ヲ受ケタル者ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ辭ス

ルコトヲ得ス

第三十七條 破産管財人ノ任期ハ三ヶ年トス但再任セラル、コトヲ得

第三十八條 名簿中ノ破産管財人破産裁判所ヨリ選定セラレタルトキハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十九條 破産管財人ハ其職務ニ著手スル前公平誠實ニ其職務ヲ執ルコトヲ誓フ可シ

第四十條 破産管財人ハ其擔任スル破産手續中任期滿ツルモ之ヲ終結スルマテ解任スルコトヲ得ス

第四十一條 破産裁判所ハ忌避其他該事件ニ不適當ナルノ理由アリテ名簿中ノ破産管財人ヲ選定ス可スラスト認ムルトキハ他ニ破産管財人ヲ選定スルコトヲ得此場合ニ於テハ直チニ其旨ヲ司法大臣ニ上申ス可シ

前項ノ破産管財人モ名簿中ノ破産管財人ト同一ノ權利及ヒ義務ヲ有ス

第四十二條 職務執行ノ不當又ハ不正ノ爲メ管財人ノ職ヲ解クトキハ破産裁判所ノ公

廷ニ於テ其理由ヲ付シテ之ヲ言渡ス可シ

第四十三條 管財人ノ報酬ハ一破産手續ノ全體ニ付キ又ハ收入シタル價額ノ割合ニ應シテ之ヲ定メ財團ノ配當アル毎ニ其歩割ヲ以テ之ヲ支拂フ可シ

第四十四條 第三十六條及ヒ第三十八條ノ規定ニ違フ者ハ刑法第七十九條ノ罰金ニ處ス

第四十五條 商法第三十三條ニ依リ裁判所ニ於テ債務者ヲ監守セントスルトキハ其命令書ヲ檢事ニ送致シ檢事ハ債務者ノ住所ヲ管轄スル警察官署ニ命シ其處分ヲ爲サシム

第四十六條 削除

第四十七條 削除

第四十八條 監守ヲ爲ストキハ警察官吏ヲシテ債務者ノ住所ニ就キ其逃走若クハ財産ノ隠匿ヲ豫防シ且破産主任官ノ許可ヲ得タルトキノ外其債務者ノ外人ト面接若クハ通信スルヲ禁セシム

第四十九條 商法第三十三條第三項ニ依リ債務者ヲ引致スルトキハ特ニ作リタル引致狀

ヲ以テ之ヲ執行ス但其執行ハ刑事訴訟法ニ定メテ引狀執行ノ手續ニ準ス

第五十條 商法第四條ニ依リ裁判所ニ於テ債務者ヲ釋放スルトキハ決定書ヲ檢事ニ送致シ其執行ヲ爲サシム

第五十一條 商法中非訟事件ニ關スル裁判所管轄ハ裁判所構成法ニ定ムルモノ、外第二百五十四條、第三百七十一條、第四百四十一條、第四百九十九條、第五百十四條、第八百五十六條、第九百二條ノ事件ニ付テハ區裁判所トシ其他ノ事件ニ付テハ地方裁判所トス

第五十二條 「明治十七年第九號布告質屋取締條例」ニ依リ管轄廳ノ免許ヲ得タル質屋營業人ニハ商法第一編第七章第九節ノ規定ヲ適用セス

第五十三條 明治六年第二百十五號布告代人規則ハ商事ニ付テハ商法實施ノ日ヨリ之ヲ適用セス

明治十年第六十六號布告制限法第三條及ヒ第五條ハ商事ニ付テハ商法實施ノ日ヨリ之ヲ適用セス

明治十五年第五十七號布告爲替手形約束手形條例ハ商法實施ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○銀行條例

(明治二十三年八月
法律第七十二號)

明治二十六年一月ヨリ施行

第一條 公ニ開キタル店舗ニ於テ營業トシテ證券ノ割引ヲ爲シ又ハ爲換事業ヲ爲シ又ハ儲預リ及ヒ貸付ヲ併セ爲ス者ハ何等ノ名稱ヲ用ルニ拘ラス總テ銀行トス

第二條 銀行ノ事業ヲ營マントスル者ハ其資本金額ヲ定メ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受ク可シ

第三條 銀行ハ每半箇年營業ノ報告書ヲ製シ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ送付ス可シ

第四條 銀行ハ每半箇年財産目錄貸借對照表ヲ製シ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

第五條 刪除(二十八年二月
法律第一號)

第六條 銀行ノ營業時間ハ午前第九時ヨリ午後第三時マテトス但營業ノ都合ニ依リ之

ヲ増加スルコトヲ得(二十八号二月法 律第一號改正)

第七條 銀行ノ休日ハ大祭日、祝日、日曜日及銀行營業地ニ行ハル、定例ノ休日トス但止ムヲ得サル事故アルトキハ地方長官ニ届出テ豫メ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ公告シタル上休業スルコトヲ得

第八條 大藏大臣ハ何時タリトモ地方長官又ハ其他ノ官吏ニ命シテ銀行ノ業務ノ實況及ヒ財産ノ現況ヲ検査セシムルコトヲ得

第九條 第二條ノ規定ニ違反シ大藏大臣ノ認可ヲ受ケスシテ銀行ノ事業ヲ營ミタル者ハ商法第二百五十六條ノ例ニ依テ處分ス

第十條 銀行ニ於テ第三條ノ報告若ハ第四條ノ公告ヲ爲サス又ハ其報告中若ハ公告中ニ詐偽ノ陳述ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキハ商法第二百六十二條ノ例ニ依テ處分ス

第八條ノ検査ヲ受クルコトヲ拒ミタルトキハ商法第二百五十八條ノ例ニ依テ處分ス
第十一條 此條例ハ日本銀行、橫濱正金銀行、國立銀行ニ適用セス

○銀行條例施行細則

(明治二十六年五月 大藏省令第七號)

第一章 銀行ノ設立

第一節 合名會社及ヒ合資會社

第一條 合名會社ノ組織ヲ以テ銀行ノ事業ヲ營マントスルモノハ營業科目、資本金額并ニ存立時期ヲ定メタルトキハ其時期ヲ記載シタル願書ニ會社契約及ヒ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

第一 會社ノ社名及ヒ營業所

第二 各社員ノ氏名

第三 開業セントスル年月日

第四 業務擔當社員ヲ特ニ定メタルトキハ其氏名及ヒ住所

第五 支店ヲ置クトキハ其場所及ヒ名稱

第二條 合資會社ノ組織ヲ以テ銀行ノ事業ヲ營マントスルモノハ營業科目、資本金額

并ニ存立時期ヲ定メタルトキハ其時期ヲ記載シタル願書ニ會社契約及ヒ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ其認可ヲ受クヘシ

第一 各社員ノ出資額

第二 會社ノ社名及ヒ營業所

第三 各社員ノ氏名

第四 開業セントスル年月日

第五 無限責任社員アルトキハ其氏名

第六 業務擔當社員ノ氏名及ヒ住所

第七 支店ヲ置クトキハ其場所及ヒ名稱

第三條 合名會社合資會社ハ大藏大臣ノ認可ヲ得テ設立シタルトキハ事業著手前ニ商法第七十九條又ハ同法第三百三十八條ノ事項ヲ登記スルノ手續ヲ爲スコシ

第四條 合名會社合資會社營業科目、資本金額及ヒ存立時期ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シ更ニ願書ヲ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

會社契約及ヒ參考書ニ掲ケタル事項ニ變動アルトキハ地方長官ヲ經由シ速ニ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第五條 前條ニ依リ認可ヲ受クヘキ事項ニシテ商法第八十條ノ登記ヲ要スルトキハ認可ヲ得タル後七日以内ニ其登記ヲ受クヘシ

第六條 合名會社合資會社ハ認可並ニ登記ヲ要スル事項ニツキテハ大藏大臣ノ認可ヲ得ルモ商法第七十八條又ハ同法第八十條ノ登記ヲ受ケサルカ若クハ同法第八十二條ニ依リ登記ノ効ヲ失ヒタルトキハ其認可ノ効力ヲ生セサルモノトス

第二節 株式會社

第七條 株式會社ノ組織ヲ以テ銀行ノ事業ヲ營マントスルモノハ四人以上ノ發起人連署捺印シテ目録見書及ヒ假定款ヲ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ差出シ發起ノ認可ヲ請フヘシ

第八條 創業總會ノ終リシ後發起人ハ營業科目、資本金額並ニ存立時期ヲ定メタルトキハ其時期ヲ記載シタル願書ニ目録見書、定款、株式申込簿、登記ノ認可證及ヒ左ノ

事項ヲ記載シタル参考書ヲ添へ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一 會社ノ社名及ヒ營業所

第二 取締役ノ氏名及ヒ住所

第三 開業セントスル年月日

第四 支店ヲ置クトキハ其場所及ヒ名稱

第九條 株式會社設立ノ認可ヲ得テ發起人ヨリ事務ノ引渡ヲ爲シタルトキハ取締役ハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ株主ヲシテ株金ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

前項ノ拂込金額各株式ノ四分一以上ニ達スルトキハ事業着手前ニ商法第六十八條ニ依リ登記ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 株式會社營業科目、資本金額及ヒ存立時期ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シ更ニ願書ヲ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

會社定款及ヒ参考書ニ掲ケタル事項ニ變動アルトキハ地方長官ヲ經由シ速ニ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第十一條 株式會社ハ前條ニ依リ認可ヲ受クヘキ事項ニシテ商法第二百十條ノ登記ヲ要スルトキハ認可ヲ得タル後直ニ其登記ヲ受クヘシ

第十二條 株式會社ハ認可并ニ登記ヲ要スル事項ニツキテハ大藏大臣ノ認可ヲ得ルモ商法第六十八條又ハ同法第二百十條ノ登記ヲ受ケサルカ若クハ同法第七十條及ヒ第八十二條ニ依リ登記ノ効ヲ失ヒタルトキハ其認可ノ効力ヲ生セサルモノトス

第三節 各人

第十三條 各人ニ於テ銀行ノ事業ヲ營マントスルトキハ營業科目并ニ資本金額ヲ記載シタル願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル参考書ヲ添へ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

第一 營業所

第二 開業セントスル年月日

第三 支店ヲ置クトキハ其場所及ヒ名稱

第十四條 營業科目及ヒ資本金額ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シ更ニ願書

ヲ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

参考書ニ掲ケタル事項ニ變動アルトキハ地方長官ヲ經由シ速ニ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第二章 營業

第十五條 銀行ハ營業上一切ノ取引ニ使用スル印章ヲ定メ其印鑑ハ地方長官ヲ經由シ之ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ改印スルトキモ亦同シ

第十六條 本店及ヒ支店ニ於テ營業ヲ開始スルトキハ地方長官ヲ經由シ其期日ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第十七條 銀行ハ其名稱ヲ掲牌ニ記載シ營業時間中ハ之ヲ其銀行ノ店前公衆ノ目ニ觸レ易キ所ニ掲クヘシ

第十八條 銀行ニシテ支拂ヲ停止スルトキハ地方長官ハ其事由ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

第十九條 各人ニシテ銀行ノ事業ヲ營ムモノ其營業ヲ廢止スルカ又ハ破産ヲ宣告セラ

レタルモノアルトキハ地方長官ハ其年月日及ヒ事由ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

第二十條 合名會社合資會社ニシテ銀行ノ事業ヲ營ムモノ其營業ヲ廢止スルカ又ハ解散スルトキハ地方長官ハ其年月日及ヒ事由ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

第二十一條 株式會社ニシテ銀行ノ事業ヲ營ムモノ其營業ヲ廢止スルカ又ハ破産ヲ宣告セラレタルモノアルトキハ地方長官ハ其年月日及ヒ事由ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

商法第二百三十四條及ヒ同法第二百五十五條第二項ノ届出ハ地方長官ヲ經由シ之ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ

第二十二條 地方長官ハ銀行ニシテ法令ニ違反スルモノアリト認ムルトキハ其事狀ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告シ其指揮ヲ請フヘシ

第三章 報告及ヒ公告

第二十三條 銀行條例第三條及ヒ第四條ノ半箇年ハ毎年一月ヨリ六月マテ及ヒ七月ヨ

十二月マテトシ迄ヲ銀行ノ營業年度トス

第二十四條 銀行條例第三條ノ營業報告書ハ附屬雜形ニ準シテ調製シ毎營業年度經過後一箇月以内ニ之ヲ發送スヘシ但シ遠隔ノ地ニ支店ヲ有シ本條ノ期日內ニ報告書ヲ發送スル能ハサルモノハ地方長官ヲ經由シ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ其期日ヲ定ムルコトヲ得

第二十五條 銀行ハ前條ノ報告書ヲ發送スルト同時ニ銀行條例第四條ノ公告ヲ爲スヘシ

第二十六條 銀行ノ營業所アル地方ニ於テ刊行スル新聞紙アルトキハ他地方ノ新聞紙ニ公告スルト否トニ拘ハラヌ所在地方ノ新聞紙ニ公告スルヲ要ス

銀行ノ營業所アル地方ニ刊行ノ新聞紙ナキトキハ最寄地方又ハ取引先多キ地方ノ新聞紙ニ公告シ尙ホ營業所ノ店前ニ掲示シテ公告スヘシ

第二十七條 銀行條例第七條但書ニ依リ休業セントスルモノハ少ナクトモ三日以前地方長官ニ届出テ同時ニ銀行ノ營業所アル地方ニ於テ刊行スル新聞紙ニ公告スヘシ

銀行ノ營業所アル地方ニ刊行ノ新聞紙ナキトキハ營業所ノ店前其他公衆ノ目ニ觸レ易キ場所ニ少クトモ三日前ヨリ公告スヘシ

第二十八條 銀行ヨリ大藏大臣ニ差出スヘキ書類ハ總テ地方長官ヲ經由スヘシ

地方長官ハ前項ノ書類ヲ調査シ意見アルトキハ之ヲ添付シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章 検査

第二十九條 銀行條例第八條ニ依リ検査ヲ爲ストキハ其検査ヲ命セラレタル官吏ハ検査官タル証券ヲ携帯スヘシ

第三十條 銀行ハ検査官ニ於テ検査上必要トスル營業用ノ金匱、財産現在高、帳簿及ヒ總テノ書類ハ其要求ニ應シテ之ヲ示シ又ハ説明ヲ爲スヘシ

第三十一條 検査官検査ヲ終了シタルトキハ其検査ノ顛末ヲ速ニ大藏大臣ニ報告スヘシ

第五章 補則

第三十二條 銀行條例實施前ヨリ既ニ設立シタル株式會社ニシテ銀行ノ事業ヲ營ムモノ

ノ銀行條例施行後ニ其事業ヲ繼續セントスルトキハ商法施行條例第十條ニ依リ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條 銀行條例實施前ヨリ既ニ設立シタル合名會社合資會社又ハ各人ニシテ銀行ノ事業ヲ營ムモノ銀行條例施行後ニ其事業ヲ繼續セントスルトキハ本規則第一條第二條又ハ第十三條出願ノ手續ニ準據シ本年六月三十日マテニ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ届出ツヘシ

前項届出ヲ爲サ、ルモノハ總テ新ニ其事業ヲ開始スルモノト見做スヘキヲ以テ本規則第一章ノ規定ニ依リ認可ヲ受クヘシ

(第一號)

第何期營業報告書

何府何市何町銀行名稱

明治何年七月一日ヨリ六月三十日ニ至ル半年間當銀行營業ノ成績ヲ蒐集シ別紙貸借對照表、損益表及ヒ財産目錄ヲ添テ茲ニ報告ス

○資本金

當銀行現在資本金何萬圓株式何株一株ニシテ(内拂込高何萬圓拂込未済高何萬圓又ハ内當期間増加高何萬圓又ハ外當期間減少高何萬圓)當期間當銀行帳簿へ記入シタル株式賣買讓與ノ總數ハ何株内何株無代價讓與ノ分差引何株此代價何圓ニシテ其平均代價ハ何圓何錢ニ當レリ而シテ現在株主ノ姓名株數ハ冊尾ニ附載セリ

○合名又ハ合資ノ銀行ハ左ノ如ク記スヘシ

當銀行現在資本金何萬圓(内當期間増加高何萬圓又ハ外當期間減少高何萬圓)又社員ハ何名ニシテ其姓名出資額ハ冊尾ニ附載セリ而シテ當期間何々ノ事故ニ依リテ入社何名退社何名其姓名及ヒ各自ノ出資額左ノ如シ

○入社ノ分

金何圓 住所 職業 姓名

○退社ノ分

金何圓 同 同

(各人ノ銀行ハ前文ニ準シ資本金額ヲ記載スヘシ)

○株主(又ハ社員)總會

(本項ハ通常及ヒ臨時總會ニ於テ決議又ハ認定セシ利益ノ配當、役員ノ選舉、資本金ノ増減、支店ノ廢置其他定款又ハ契約書ノ變更等ニ關スル件々ノ要領ヲ掲載スヘシ)

○處務ノ要件

(本項ニ商業登記簿ニ登記ヲ受ケタル事項、主務省及ヒ地方廳へ願伺届等ノ事項、訴訟其他緊要ノ件々ニ關スル要領ヲ掲載スヘシ)

○營業ノ景況

(本項ハ本支店營業ノ盛衰、金融ノ繁閑、貸借金利及ヒ割引歩合ノ高低、各種勘定ノ伸縮其他資金運用等ニ關スル景況ヲ掲載スヘシ)

○金銀出納

何支店	本店	勘定科目	日額	
			入金高	出金高
本店				
何支店				
合計				

(入金高出金高ノ桁ニハ半年間ノ總入金高及ヒ總出金高ヲ記スヘシ但シ前期ヨリ繰越ノ金高ハ算入セサルモノトス)

○諸預リ金

何支店	本店	勘定科目	諸預高		拂戻高		現預高	
			定期預金	當座預金	定期預金	當座預金	定期預金	當座預金
本店								
何支店								
合計								

合計	定期預金
	當座預金

(總預高ノ桁ニハ當期間ノ預リ高並ニ前期ヨリ繰越シタル預リ高ヲモ合算シテ掲載スヘシ) ○又茲ニ掲載シタル外ニ公金其他別種ノ預金アルトキハ右ニ準シ掲載スヘシ)

○諸貸金

合計	何支店	本店		勘定科目	總貸高	返済高	現貸高	口數
		當座預金貸越	貸付金					

(總貸高ノ桁ニハ當期間ノ貸高並ニ前期ヨリ繰越シタル貸高ヲモ合算シテ掲載スヘシ) ○又口數ノ桁ニハ現貸高ノ口數ヲ掲載スヘシ ○又當期ノ決算ニ於テ若シ該貸金ノ中損失ニ歸シタルモノアルトキハ其金額及ヒ口數ヲ茲ニ掲載スヘシ) 右現貸高ヲ低當質物ノ種類ニ依リテ區別スレハ左ノ如シ

合計	本店	現貸金高				抵當質物種類
		國債並ニ地方債證券	諸株券	地所並建築家	無抵當	

(現貸高ノ桁ニハ貸付金及ヒ當座預金貸越ノ現貸高ヲ抵當質物ノ種類ニ依リ合算シテ掲載スヘシ) ○支店ハ本店ニ準シ掲載スヘシ)

○割引手形

合計	何支店		本店		手形種類	
	約束手形	爲替手形	約束手形	爲替手形	當所	他所
					枚数	金額
					枚数	金額
					枚数	金額
					枚数	金額
					枚数	金額
					枚数	金額
					枚数	金額
					枚数	金額

(本項ハ當期間ニ割引シタル手形ヲ其支拂地ノ當所(銀行所在地)他所及ヒ其種類ニ依リ區別シテ之ヲ掲載スヘシ)

○荷爲替手形

枚数	金額	各地へ向ケタル分	枚数	金額	各地ヨリ受ケタル分

合計	何支店	本店

(本項ハ當期間ニ取組ミタル金額ヲ掲載スヘシ)
○送金手形

合計	何支店		本店		爲替金種類	各地へ向ケタル分	各地ヨリ受ケタル分
	約束手形	爲替手形	約束手形	爲替手形			
					枚数	金額	枚数
					枚数	金額	枚数
					枚数	金額	枚数
					枚数	金額	枚数
					枚数	金額	枚数
					枚数	金額	枚数
					枚数	金額	枚数
					枚数	金額	枚数
					枚数	金額	枚数

(本項ハ常期間ニ取組ミタル金額ヲ掲載スヘシ) ○公金ノ桁ニハ國庫及ヒ爲替方其
他諸衙郡區市町村等ニ係ル爲替金ヲ掲載スヘシ)

○代金取立手形

合計	何支店	本店	手形種類		當	所	他	所
			爲替手形	約束手形				
約束手形								
爲替手形								

(本項ハ常期間ニ代金取立ノ依頼ヲ受ケタル手形ヲ其支拂地ノ當所他所及ヒ其種
類ニ依リ區別シテ掲載スヘシ) 又爲替手形約束手形ノ外ニ賣掛證書等ノ代金取立ノ
依頼ヲ受ケタルトキハ別ニ約束手形ノ次ニ科目ヲ設ケ掲載スヘシ)

(前四項即チ割引手形爲替手形送金手形代金取立手形ノ内若シ支拂拒却又ハ組
戻トナルモノアリシトキハ各項ノ末ニ別ニ其手形ノ種類枚數金額等ヲ掲載スヘシ
但シ前期ヨリ繰越ノ分ニシテ拒却又ハ組戻トナリタルモノモ亦共ニ掲載スルモノ
トス)

○諸公債證書

合計	何支店	本店	價格		總買入高	賣渡又ハ償還高	現在高
			實價	券面			
實價							
券面							

右諸公債證書ノ利益(又ハ損失)ニ歸シタル金額ハ何圓ナリ

(總買入高ハ當期間買入高並ニ前期繰越高ヲ合算シテ掲載スヘシ)
 (現所有高實價ノ桁ニハ決算當日ニ於ケル現在所有高ノ市價即チ見積代價ヲ掲載
 スヘシ例ヘハ現在所有高ノ元買入代價ハ五千二百圓ナリシニ其市價五千五百五十
 圓ニ騰貴シタリトセハ現所有高ノ實價ノ桁ニ五千五百五十圓ト記入スルモノトス
 而シテ其市價ニ照シ利益ニ歸シタル高ハ參百五十圓ナリ○地金銀又ハ地所建物其
 他各勘定ニ於テ損益ヲ見ルヘキ場合ハ總テ此例ニ依ルヘシ)
 右現在高ヲ其種類ニ依テ區別スレハ左ノ如シ

種 類	面 實 價	本 店			何 支 店			合 計
		何 市 公 債	何 公 債	整 理 公 債	何 公 債	何 公 債	何 公 債	

合 計	何 市 公 債
、、、、、、、、	

○地金銀

和 類	總 買 入 高	賣 渡 高	現 所 有 高	本 店		何 支 店		合 計	
				銀	金	銀	金	銀	金

「右地金銀ノ利益又ハ損失ニ歸シタル金額ハ公債證書ノ項ノ例ニ依リ茲ニ記載ス
 ヘシ」

「購買入高ハ前半季繰越高井ニ當期間買入高ヲ合算シテ記載スヘシ」
 ○營業用他所建物及ヒ什器

合 計	支 店			本 店			種 類	金 額
	地 所	米 穀	建 物	地 所	建 物	什 器		
、	、	、	、	、	、	、	、	
、	、	、	、	、	、	、	、	
、	、	、	、	、	、	、	、	
、	、	、	、	、	、	、	、	
、	、	、	、	、	、	、	、	
、	、	、	、	、	、	、	、	
、	、	、	、	、	、	、	、	
、	、	、	、	、	、	、	、	
、	、	、	、	、	、	、	、	

「右地所建物及ヒ什器ノ利益又ハ損失ニ歸シタル金額ハ公債證書ノ項ノ例ニ依リ
 茲ニ記載スヘシ」
 ○抵當質物流込物件

合 計	支 店			本 店			種 類	數 量	金 額
	地 所	米 穀	建 物	地 所	建 物	地 所			
、	、	、	、	、	、	、	、		
、	、	、	、	、	、	、	、		
、	、	、	、	、	、	、	、		
、	、	、	、	、	、	、	、		
、	、	、	、	、	、	、	、		
、	、	、	、	、	、	、	、		
、	、	、	、	、	、	、	、		
、	、	、	、	、	、	、	、		
、	、	、	、	、	、	、	、		

「右物件ノ利益又ハ損失ニ歸シタル金額ハ公債證書ノ項ノ例ニ依リ茲ニ記載スヘシ」

シ

「コレレスボラデンス」先

當銀行本支店「コレレスボンデンス」先ハ現今幾箇ニシテ前半季ニ比スレハ幾箇ヲ
(増)(減)セリ其取組先ハ左ノ如シ

○本店

何地何銀行	何銀行何地支店	何々會社若クハ誰某
、、、、、	、、、、、	、、、、、

○支店

何地何銀行	何銀行何地支店	何々會社若クハ誰某
、、、、、	、、、、、	、、、、、

○損益

一金何圓

本店當期總益金

一金何圓

一金何圓

合計金何圓

内

一金何圓

一金何圓

小計何圓

各支店當期總益金
前期繰越益金

本店當期總損金
各支店當期總損金

差引

金何圓

此配當計算左ノ如シ

同 純 益 金

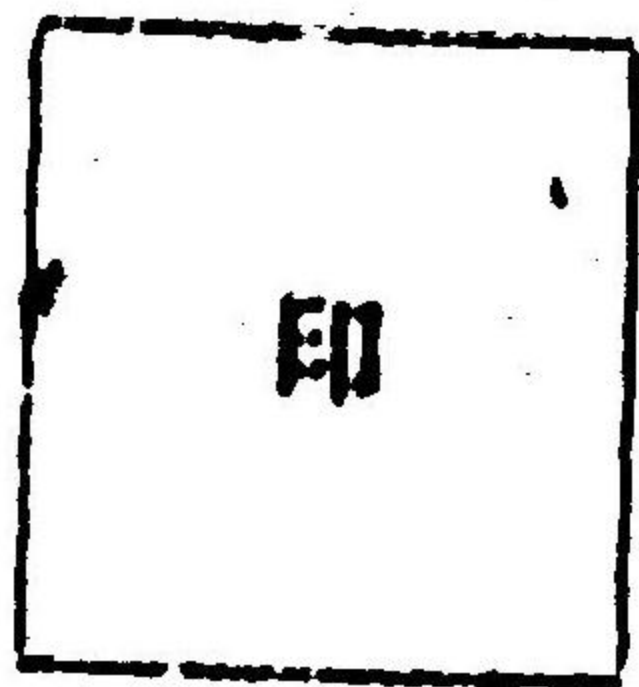
金何圓

金何圓

金何圓

積立金
配當金何百圓ノニ割付
後季繰込

右之通候也



何 銀行
取 締 役 何 某 印
同 同
同 同

前記ノ各項調査ヲ遂ケ其正確ナルヲ保證候也

監 査 役 何 某 印
同 同

(合名及ヒ合資銀行ハ業務擔當社員連署シ各人ハ本人署名スヘシ)

○株主(又ハ社員)姓名表

姓 名	株 數	姓 名	株 數

(合名及ヒ合資銀行ハ株數ノ桁ヲ除クヘシ而シテ株式ノ銀行ニシテ無限責任ノ取
締役アルトキハ其旨ヲ姓名ノ上ニ附記スヘシ)

備 考

- 一 貸借對照表ハ決算當日ニ於ケル銀行ノ資産負債一切ノ勘定ヲ現ハスモノナリ故ニ
若シ他ノ勘定アルトキハ適當ノ科目ヲ設ケテ之ヲ記入スヘシ
- 一 貸借對照表ハ本店並ニ支店各自ノ分ト本支店ヲ合シタル分ト各別ニ調製スヘシ
- 一 貸借對照表中他店へ貸又ハ他店ヨリ借トアル勘定ニハ爲替ノ貸借尻ヲ記載シ尋常
貸借金ハ貸付金額ヲ金等ノ科目ニ記入スヘシ

本店貸借対照表

明治何年何月何日

(第二號)

借方	摘要	貸方
	定期預金	18,000,000
	當座預金	87,058,000
	支拂込金手形	2,547,000
	他店ヨリ借(貸借所)	2,000,000
	
17,500,000	貸付金	
765,500	常座預金貸越	
89,184,300	割引手形	
2,500,000	荷爲換手形	
5,200,000	公債証券	
18,500,000	他店へ貸(貸借所)	
4,100,000	支店へ貸	
5,000,000	支店元金	
	
50,000,000	資本金	100,000,000
	繰込未済資本金	
	積立金	7,000,000
	当期純益金	1,970,000
	
1,800,000	營業用地所建物	
200,000	營業用什器	
	(正貨) 8,561,550	
26,920,000	金有 銀高 紙幣 兌換券 切手手形	17,599,000
		765,450
	
164,178,000	合 計	164,178,000

何府何市何町

何銀行

印

一 本支店ヲ合シタル報告表ハ支店ノ各勘定ヲ夫々本店ノ同勘定ニ合算シ支店勘定本店勘定等ノ科目ヲ掲載セサルモノトス

一 損益表ハ本支店全體ノ損益ヲ現シ利益配當ノ割合ヲ示スモノナリ故ニ若シ損益ニ屬スル他ノ勘定アルトキハ適當ノ科目ヲ設ケテ之ヲ記入スヘシ

一 財産目録ハ決算當日ニ於ケル銀行現在資産ノ數量價格等ヲ示スモノニシテ本店並ニ各支店ノ分ト本支店ヲ合シタル分ト各別ニ開製スヘシ

一 貸借対照表、損益表及ヒ財産目録ハ便宜ニ依リ第二號乃至第六號若クハ第七號乃至第十一號雜形ニ準シ開製スヘシ

一 報告表用紙ハ成ルヘク紙質ノ堅牢ナルモノヲ用フヘシ

第何期貸借對照表

明治何年 何月 何日

(第四號)

借方	摘要	貸方
	定期預金	21,500,000
	當座預金	62,185,500
	支拂込金手形	4,400,000
	他店より借(擔箇所)	14,708,500
	
29,900,000	貸付金	
1,800,000	當座預金貸越	
51,471,000	割引手形	
4,800,000	荷爲換手形	
7,506,000	公債證券	
29,524,000	他店へ貸(擔箇所)	
	
50,000,000	資本金	100,000,000
	拂込未済資本金	
	積立金	7,000,000
	當期純益金	2,464,000
	
2,000,000	營業用地所建物	
250,000	營業用什器	
	
35,937,000	金有	
	正貨	9,866,660
	紙幣兌換	23,624,000
	換券	
	切手手形	2,496,840
	
212,288,000	合 計	212,288,000

何縣府
何市
何町

何銀行

印

百三

地支店貸借對照表何

明治何年 何月 何日

(第三號)

借方	摘要	貸方
	定期預金	8,500,000
	當座預金	26,112,500
	支拂込金手形	1,858,000
	他店より借(擔箇所)	12,108,500
	本店より借	4,100,000
	
12,400,000	貸付金	
584,500	當座預金貸越	
19,286,500	割引手形	
1,800,000	荷爲換手形	
2,806,000	公債證券	
11,024,000	他店へ貸(擔箇所)	
	
	支店元金	5,000,000
	當期純益金	488,000
	
700,000	營業用地所建物	
50,000	營業用什器	
	
9,061,000	金有	
	正貨	1,806,110
	紙幣兌換	6,025,000
	換券	
	切手手形	1,780,890
	
57,162,000	合 計	57,162,000

何縣府
何市
何町

何銀行
支店

印

百二

財產目錄

明治卅年三月三十一日

(第六號)

種類	納	要	金額
貸付金	三十	通口	29,900,000
貸出預金	二十	口	1,800,000
引手形	三十	枚	51,471,000
換手形	十五	枚	4,800,000
國債	七千	圓	5,508,000
地方債	二千	圓	2,000,000
他店貸	何	所	29,524,000
營業用地	三百	坪	800,000
營業用家作土	三棟	七十坪	1,200,000
營業用什器	金	何點	250,000
拂込未済資本金	現株主二十名株式二千株又社員名		50,000,000
金銀有高			85,987,000
合計			212,288,000

何縣府
何市
何町

何銀行

印

百五

損益表

明治卅年三月三十一日

(第五號)

損失	納	要	利益
	當期利益		
	利息		052,000
	手續料		854,000
	引料		1,518,500
	公債利息		188,000
	公債買賣益		508,000
	前期繰越		65,000
885,000	給料		
858,500	雜費		
780,000	損失		
450,000	積立金		
2,000,000	配當金 (拂込資本高百圓)		
14,000	後期繰越		
合計			4,167,500

何縣府
何市
何町

何銀行

印

百四

(第七號)

本店貸借對照表

貸	當預付金	一七五〇〇〇
	當預付金	六六五〇〇〇
債	定期	一三〇〇〇〇
	活期	三三〇〇〇〇
計	合計	一六四一七六〇〇〇
	合計	一六四一七六〇〇〇

明治何年十二月三十一日

何縣何市何町

何銀行

印

百六

(第八號)

何地支店貸借對照表

貸	當預付金	一三〇〇〇〇
	當預付金	五三〇〇〇〇
債	定期	一九二八六〇〇〇
	活期	一八〇〇〇〇〇
計	合計	五七二六三〇〇〇
	合計	五七二六三〇〇〇

明治何年十二月三十一日

何縣何市何町

何銀行支店

印

百七

(第九號)

第何期貨借對照表

合 計	貨	貸	金	額
	金	額	債	金
合 計	金	額	債	金
	金	額	債	金

明治何年十二月三十日

何縣何市何町

何銀行

印

百八

(第十號)

損益表

合 計	利	益	金	額
	金	額	損	失
合 計	金	額	損	失
	金	額	損	失

明治何年十二月三十日

何縣何市何町

何銀行

印

百九

種類	納	要	金額
貸付金	三	十	三九〇〇〇
常引金	二	十	一三〇〇〇
切引手形	三	十	二〇〇〇〇
國債	十	千	五〇〇〇〇
地方債	七	千	三〇〇〇〇
他債	二	千	二〇〇〇〇
地所	何	坪	二九〇〇〇
當舖	三	坪	八〇〇〇〇
金銀	三	兩	一〇〇〇〇
株券	三	股	二〇〇〇〇
現金	三	圓	五〇〇〇〇
合計	三	十	二〇三〇〇〇

明治何年十二月三十一日

何府何郡何町

何銀行

印

○貯蓄銀行條例

(明治二十三年八月 法律第七十三號)

明治二十四年一月一日ヨリ施行

第一條 權利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲ニ預金ノ事業ヲ營ム者ヲ貯蓄銀行トス

銀行ニ於テ新ニ一口五圓未満ノ金額ヲ定期預リ若ハ當座預リトシテ引受ルトキハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ム者ト爲シ此條例ニ依ラシム

第二條 資本金三萬圓以上ノ株式會社ニアラサレハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ムコトヲ得ス

第三條 貯蓄銀行ノ取締役ハ在任中ニ生シタル銀行ノ義務ニ付連滞無限ノ責任ヲ負フ

但トス(明治二十八年三月 法律第七十七號改正)

但トス(明治二十八年三月 法律第七十七號改正)

但トス(明治二十八年三月 法律第七十七號改正)

第四條 貯蓄銀行ハ貯蓄預金拂戻ノ擔保トシテ預金總高ノ四分ノ一ヨリ少カラサル金額ヲ利付國債證券又ハ地方債證券ニテ備ヘ置キ之ヲ供託所ニ預ケ入ルヘシ(全上)

但擔保金額カ資本金ノ半額以上ニ及フトキハ商業手形及確實ナル會社ノ債券又ハ株券等ヲ用ルルヲ得

第五條 前條ノ金額ハ毎半年末日現在ノ預金高ニ依リ之ヲ定ム(全上)

百半一

第六條 預ケ人ハ第四條ノ供託附證券ニ就キ優先權ヲ有ス(全上)

第七條 貯蓄銀行ニ於テ其定款ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 銀行ニシテ貯蓄銀行ノ事業ヲ營マントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 貯蓄銀行ニシテ此條例ノ規定ニ違反シタルトキハ其取締役ヲ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

貯蓄銀行ニアラスシテ貯蓄銀行ノ業ヲ營ミタルトキハ營業主又ハ會社ノ業務擔當社員若ハ取締役ヲ前項ノ罰ニ處ス

第十條 此條例ニ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ銀行條例ニ依ル

○貯蓄銀行條例施行細則

(明治二十八年三月六日 省令第二號ヲ以テ改正)

第一條 貯蓄銀行條例第四條ノ利付附證券、地方債證券、商業手形、會社ノ債券又ハ

株券ハ明治二十六年大藏省令第二十一號供託物取扱規程第二條ノ手續ニ依リ之ヲ本店所在地ノ供託所ニ預ケ入ルヘシ

第二條 附證券ノ擔保價格ハ每半箇年末日ノ時價ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三條 第一條ニ依リ證券供託ノ手續ヲ了シタルトキハ供託所受領證人寫ヲ添付シ毎半箇年末日ヨリ三十日以内ニ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ届出ツヘシ

臨時ニ供託ヲ爲シタル場合ニ於テハ其都度直ニ前項ニ依リ届出ヲ爲スヘシ

第四條 既ニ供託シタル證券ノ全部又ハ一部ノ返戻ヲ要スルトキハ其理由ヲ具シ返戻ヲ求メントスル證券ノ種類、記號、番號、券面ノ金額、枚數及ヒ擔保金額ヲ記載シテ地方長官ニ出願シ其承認ノ證據ヲ提出シ供託物取扱規程第十條ノ手續ニ依リ供託所ニ請求スヘシ

地方長官ハ前項ノ承諾ヲ與ヘタルトキハ直ニ書類ノ寫ヲ添付シ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第五條 大藏大臣ハ會社ノ債券又ハ株券等ニシテ貯蓄預金ノ擔保ニ供スヘカラサルモ

ノト認ムルトキハ其供託ヲ制止スルコトアルヘシ

第六條 供託証券ニハ其銀行ノ所有ニ屬スルコトヲ證明スヘキ証券ヲ添付スヘシ(明治二十八年五月大藏省令 第二號ヲ以テ改正)

八年五月大藏省令 第二號ヲ以テ改正

第七條 貯蓄銀行ノ營業報告書ハ附屬雜形ニ準シ調製スヘシ

第八條 本規則ニ規定セサルモノハ總テ銀行條例施行細則ニ依ル

(雜形)

○貯蓄銀行營業報告

貯蓄銀行營業報告書ハ左ニ示セル各項ノ外總テ銀行營業報告中株式會社ノ例ニ準シ調製スヘシ

一貯蓄預金ハ左ノ雜形ニ依リ掲載スヘシ

貯蓄預金

本店	前期繰越高	當期預高	當期拂戻高	現預高
何支店				
合計				

右現預リ高ヲ預人ノ職業ニ依リ區別スレハ左ノ如シ

本店	何支店	合計	農	商	工	雜	合計
			人員金額	人員金額	人員金額	人員金額	人員金額

又右現預リ高ヲ金額ノ大小ニ依リ區別スレハ左ノ如シ

本店	何支店	合計	百圓以上	五十圓以上百圓未満	五十圓未満	一入ニ平均金額
			人員金額	人員金額	人員金額	人員金額

右貯蓄預金ノ利子ハ年何分何厘ナリ
 右現預金高四分ノ一即チ金何圓ニ對スル諸證券ヲ貯蓄預金拂戻保證トシテ何地供託
 所ニ預ケ入レタリ其種類金額左ノ如シ

種 類	枚 數	券 面 金 額	擔 保 金 額
何 公 債 證 書			
何 市 公 債 證 書			
爲 替 手 形			
何 會 社 債 券			
何 會 社 株 券			
合 計			

(諸證券ハ其價格當期末日ノ預金總高ノ四分ノ一以上ニシテ實際供託ヲ爲シタル分
 ヲ掲載スヘシ)

○銀行合併法

(明治二十九年四月法律第八五號)

第一條 同一ノ法律ニ依リテ設立シタル銀行營業ノ各株式會社ハ左ノ方法ニ依リ合併
 スルコトヲ得

第一 會社其ノ資産及負債ノ全部ヲ以テ他ノ會社ニ合併スルコト

第二 二箇以上ノ會社合併シテ更ニ一ノ會社ヲ設立スルコト

第二條 前條第一ノ方法ニ依リ合併セムトスル會社ハ各其ノ株主總會ニ於テ合併ニ關

スル事項ヲ決議シ地方長官ヲ經由シテ主務省ノ認可ヲ受クヘシ

前項株主總會ノ招集ハ少クトモ會日ノ三十日前ニ之ヲ爲スヘシ

第三條 第一條第二ノ方法ニ依リ合併セムトスル會社ハ各其ノ株主總會ノ決議ヲ取リ

タル後各會社株主ノ聯合總會ヲ開キ合併ノ決議ヲ爲シ更ニ設立スヘキ會社ノ定款ヲ

議定シ各會社取締役ノ連署ヲ以テ地方長官ヲ經由シテ主務省ノ認可ヲ受クヘシ

聯合株主總會ニ於テハ更ニ設立スヘキ會社ノ取締役及監査役ヲ選定ス

前條第二項ノ規程ハ本條ノ株主總會ニモ亦之ヲ適用ス

第四條 株主總會及聯合株主總會ノ決議方法ハ商法第二百三條ノ規程ニ依ル

聯合株主總會ニ於ケル株主ノ議決權ハ一株毎ニ一箇トス但シ各會社ノ定款ニ於テ議決權ノ制限ヲ設ケタルトキハ其ノ制限ハ十一株以上ヲ有スル株主ノ議決權ニ對シテノミ之ヲ適用シ且各定款ノ制限同シカラサルトキハ株主ニ對シ最利益アル制限ノ規程ヲ適用ス

各會社ノ株式ノ金額相同シカラサルトキハ其ノ最少額ノ株式金額ヲ標準トシテ其ノ他ヲ改算シ議決權ノ數ヲ定メ毎株主持株ノ總金額ニ於テ端數ヲ生スルトキハ之ヲ算入セス

第五條 株主總會ノ招集アリタルトキハ各會社ハ合併スヘキ他ノ會社ノ株主ノ求ニ應シ商法第二百二十二條ニ掲ケタル書類ノ展閱ヲ許ス義務アリ

第六條 株主總會ノ招集アリタルトキハ各會社營業所ノ裁判所ハ合併スヘキ一方ノ會社ノ總株金ノ少クトモ五分ノ一ニ當ル株主ノ申立ニ因リテ一人又ハ數人ノ官吏ニ他ノ一方ノ會社ノ業務ノ實況及財産ノ現況ノ檢査ヲ命スルコトヲ得

商法第二百五條及第二百二十六條ノ規程ハ本條ノ檢査ニモ亦之ヲ適用ス

第七條 聯合株主總會若ハ第二條ノ株主總會ニ於テ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ取締役ヨリ之ヲ裁判所ニ届出ヘシ

第八條 主務省及裁判所ハ合併ノ實況ヲ監視スル權アリ

第九條 聯合株主總會若ハ第二條ノ株主總會ニ於テ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ合併ニ因リ消滅スヘキ會社ハ既ニ始メタル取引ヲ完結シ又ハ現ニ存在スル會社義務ヲ履行スル外其ノ業務ヲ止メ且少クトモ三回之ヲ公告スヘシ取締役之ニ拘ラスシテ營業ヲ續行スルトキハ此カ爲其ノ全財産ヲ以テ自己ニ責任ヲ負フ

第十條 合併セムトスル會社ハ公告ヲ爲シテ聯合株主總會若ハ第二條ノ株主總會ノ會日前一箇月ヲ踰エサル期間株式ノ讓渡ヲ停止スルコトヲ得

第一條第二ノ方法ニ依リ合併セムトスル場合ニ在テハ聯合株主總會ニ於テ合併ノ決議ヲ爲シタル日ヨリ第十四條ニ依リ登記ヲ受クルマテノ間ニ爲シタル株式ノ讓渡ハ無効タリ

第十一條 合併ノ認可アリタルトキハ取締役ハ合併ノ旨ヲ總テノ債權者ニ通知シ且合併ニ對シ異議アル者ハ或ル期間内ニ會社ニ申出ツヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ三十日ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ通知ニハ合併セムトスル各會社ノ財産目録及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第十二條 前條ニ掲ケタル期間内ニ異議ノ申出アラサルトキハ異議ナキモノト看做ス期間内ニ異議ヲ申出タル債權者アルトキハ會社ハ直ニ其ノ債務ヲ辨償シ若ハ之ニ擔保ヲ供シテ其異議ヲ取除クコトヲ要ス

第十三條 會社ハ第十一條ノ期間ヲ經過シ且有効ニ申出タル債權者ノ異議ヲ取除キ又訴訟中ノ債務額ハ之ヲ辨償シ若ハ供託シタル後ニ非レハ合併ヲ決行スルコトヲ得ス但シ總テノ債權者ニ於テハ異議ナキコトヲ明示シタルトキハ該期間内ト雖合併ヲ決行スルコトヲ得

第十四條 合併ヲ決行シルトキハ十四日內ニ登記ヲ受ケ同時ニ之ヲ株主ニ通知シ且地方長官ヲ經由シテ主務省ニ届出ヘシ

登記及公告スヘキ事項ハ左ノ如シ

- 第一 合併後存留スル會社ニ在テハ
 - 一 合併認可及合併決行ノ年月日
 - 二 既ニ登記ヲ受ケタル事項ニ變更ヲ生シタルモノ
 - 三 合併ニ因リ消滅シタル會社ノ社名
- 第二 合併ニ因リ更ニ設立セル會社ニ在テハ商法第百六十八條第二項（第八號ヲ除シ）ニ掲ケタル事項ノ外仍左ノ二項
 - 一 合併認可及合併決行ノ年月日
 - 二 合併ニ因リ消滅シタル會社ノ社名

第十五條 會社支店アルトキハ其ノ所在地ニ於テモ亦登記ヲ受クヘシ

第十六條 第十四條ノ期間内ニ登記ヲ受ケサルトキハ此ヲ爲會社又ハ第三者ニ生セシメタル損害ニ付キ取締役ハ其ノ全財産ヲ以テ自己ニ責任ヲ負フ

第十七條 合併後存留シ若ハ合併ニ因リ更ニ設立セル會社ハ合併ニ因リ消滅シタル會

社ノ權利義務ヲ承継ス

第十八條 國立銀行ハ第一條第二ノ方法ニ依リ合併スルコトヲ得ス

第十九條 第二條第一項ノ決議方法ハ國立銀行ニ在テハ國立銀行條例第六十九條ノ規程ニ依ル

第二十條 合併ニ依リ消滅シタル國立銀行ニ於テ發行シタル紙幣ハ合併後存留スル國立銀行ニ於テ自己ノ發行シタル紙幣ト俱ニ國立銀行條例第一百十二條ノ方法ニ依リ其ノ營業年限内ニ悉皆消却スヘシ

第二十一條 合併ノ認可アリタルトキハ合併ニ因リ消滅スヘキ會社ノ訴訟ハ合併後存留シ若ハ合併ニ因リ更ニ設立セル會社ニ於テ訴訟手續ヲ受繼クマテ之ヲ中断ス
民事訴訟法第一編第三章第五節當事者ノ死亡ニ因レル訴訟手續ノ中断ニ關スル規程ハ前項ノ場合ニモ亦之ヲ準用ス

第二十二條 取締役第十四條ノ登記ヲ受クルコトヲ怠リタルトキハ商法第二百五十六條ノ例ニ依リ第十一條ノ通知及催告ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ商法第二百五十九

ノ例ニ依リテ處分ス

法律第八十五號參照

第六十六號布告國立銀行條例(明治九年八月一日)抄錄

第六十九條 凡ソ社中評決スヘキ事件アリテ其議案ヲ出シ其銀行株主臨席ノ總員(本人代人ヲ論セス)四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ一旦其大體ヲ決定シ隨テ其旨趣ヲ詳述シテ之カ報告ヲナシ後十四日以外一箇月以内ノ時日ニ於テ更ニ執行スル所ノ總會ニ於テ其臨席シタル株主總員ノ同意セル發言投票ノ多數ヲ以テ其事件ヲ確定スル者之ヲ格段決議ト稱スヘシ

第一百十二條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行シタル紙幣ハ左ニ掲クル方法ヲ以テ營業年限内ニ悉皆消却スヘキモノトス但其取扱手續ハ大藏卿之ヲ定メ日本銀行ヲシテ之ニ從事セシムヘシ

一各國立銀行ノ紙幣引換準備金ハ大藏卿ノ指定スル期限迄ニ日本銀行ニ納付シ營

業年限内之ヲ定期預ケトカシ以テ紙幣消却ノ元資ニ充ツヘシ

一 各國立銀行ハ毎半季利益金ノ多少ニ拘ラズ其銀行紙幣下附高ニ對シ年二分五厘
(即チ半季一分二厘五毛)ニ當ル金額ヲ引去リ之ヲ日本銀行ニ預ケテ紙幣消却ノ
元資ニ充ツヘシ

一 日本銀行ハ前二項ニ掲クル金額ヲ預リ各國立銀行ト別段ノ約定ヲ結ヒ之カ發行
紙幣ヲ消却シテ大藏省ニ上納スルモノトス但其約定書ハ大藏卿ニ呈シテ之カ與
書證印ヲ受クヘシ

一 日本銀行ヨリ右消却紙幣ヲ上納シタルトキハ大藏省ニ於テ此條例第五十一條ノ
手續ニ從ヒ之ヲ燒捨テ其都度之ヲ公告スヘシ

一 日本銀行ヨリ右消却紙幣ヲ大藏省ニ上納シタルトキハ豫テ出納局ニ差出シ置キ
タル紙幣抵當公債證書ノ内右消却高ニ相當スル員額ヲ大藏省ヨリ直チニ其銀行
ニ還付スヘシ

○銀行合併法施行細則

(明治二十九年四月
大藏省令第九號)

第一條 銀行合併法第二條及ヒ第三條ニ依リ差出スヘキ合併ノ認可申請書ニハ各會社
ノ取締役連署ヲ爲シ左ノ書類ヲ之ニ添付スヘシ

一 合併ニ關スル契約書

二 銀行合併法第十一ニ規定スル各會社ノ財産目錄及貸借對照表

三 合併後存留スル會社若クハ更ニ設立スル會社ノ定款

四 右ノ外決議ノ要領ヲ記載セルモノ

第二條 合併ヲ決行シタルトキハ銀行合併法第十四條ノ届書ト同時ニ合併ニ因リ消滅
シタル會社ノ設立免許書ヲ還納スヘシ

第三條 合併ニ因リ消滅スル國立銀行ニ於テ大藏省へ預ケ入レタル紙幣抵當公債證書
ハ合併後存留スル國立銀行ヨリ保管證書ノ名義替替ヲ大藏省ニ請求スヘシ

大藏省ヨリ前項替替濟ノ通知ヲ受ケタルトキハ大藏省ノ預リ證書ヲ差出シテ其替替
ヲ請求スヘシ

○商法第二百六條債券發行ニ關スル件

(明治二十三年八月法律第六十號)

第一條 商法第二百六條ニ依リ株式會社債券ヲ發行スルハ總株金半額以上ノ拂込アリタル後ニ於テスヘシ

第二條 債券ノ發行額ハ株金ノ拂込金額ヲ超過スルコトヲ得ス

第三條 債券ヲ發行セントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ主務省ノ認許ヲ受クヘシ

第四條 債券ハ一通毎ニ其債務金額、利子ノ歩合及仕拂時期、發行ノ年月日、番號、商號、社印、取締役ノ氏名、印債權者ノ氏名ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 會社ノ營業所

二 株金總額及株金拂込額

三 債券償還ノ初期及最終期

四 會社閉業ノ年月日

五 存立時期ヲ定メタル會社ハ其時期

六 認許ヲ受ケタル事

第五條 株式會社ハ債券ヲ發行スルトキハ債券原簿ヲ備ヘ債券一通毎ニ區分シテ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 債權者ノ氏名住所

二 債權ノ金額番號

三 利子ノ歩合

四 債券發行ノ年月日及償還ノ年月日

五 債券償還ノ初期及最終期

第六條 債券ノ讓渡ハ取得者ノ氏名ヲ債券及債券原簿ニ記載スルニアラサレハ會社ニ對シテ其効ナシ

第七條 株式會社ハ營業時間中債券原簿ノ展閱ヲ請求スル者アルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス此場合ニ於テハ請求人ニ對シテ二十錢以内ノ手数料ヲ求ムルコトヲ得

第八條 取締役ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

一 債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

二 債券原簿ヲ備ヘヌ又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

○株式會社債券ニ關スル細則

(明治二十六年七月號 商標會令第十二號)

明治二十三年法律第六十號施行ノ爲メ株式會社債券ニ關スル細則左ノ通相定ム但本令ハ本省ノ主管ニ屬セサル株式會社ニハ之ヲ適用セス

第一條 債券發行ノ認許申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ農商務大臣ニ差出スヘシ

- 一 會社ノ營業所
- 二 株金總額及株金拂込額
- 三 會社開業ノ年月日
- 四 存立時期ヲ定メタル會社ハ其時期
- 五 債券ノ發行ヲ要スル事由
- 六 債券發行ノ總金額
- 七 券面ノ金額

八 債權者募集ノ初期及最終期

九 債券償還ノ初期及最終期

十 利子ノ歩合及其仕拂時期

十一 元利金仕拂ノ豫算

前項第四號乃至第十號ニ記載ノ事項ヲ變更セントスルトキハ更ニ其認許ヲ請フヘシ

第二條 債券發行ノ認許申請書ニハ債券ニ記載スヘキ左ノ契約要件ヲ具シタル書面ヲ

添付スヘシ

一 債券償還ノ年月及其手續

二 利子拂渡ノ手續

三 債券讓渡讓受ニ關シ會社及當事者ノ履行スヘキ手續並債券原簿記入停止ノ期日

四 債券ノ損傷又ハ紛失ノ節新券交付ノ手續及之ニ關スル費用ノ負擔者

前項各號ニ記載ノ事項ヲ變更シタルトキハ更ニ其旨ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第三條 債權者募集期日募集價格及債券拂込期日ヲ定メタルトキハ豫メ之ヲ農商務大

臣ニ届出ツヘシ

第四條 債権者ノ募集ヲ了リタルトキハ募集締切ノ日ヨリ三十日以内ニ左ノ事項ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ但シ二回以上ニ分テ募集スルトキハ毎回届出ツルコトヲ要ス

一 募集締切ノ年月日

二 募集金額

三 應募金額

四 申込價格ノ最昂最低及平均

五 募集契約締結ノ最低價格及會社ノ實収スヘキ金額

第五條 會社ハ毎年債券ニ關スル左ノ事項ヲ取開翌年二月末日迄ニ農商務大臣ニ届出ツヘシ

一 其年債券拂込高既往累年拂込總高及未拂込高

二 其年債券償還高既往累年償還總高及未償還高

三 利子仕拂高

四 債券譲渡讓受ノ人員及價金高

五 其年末現在債権者ノ員數

第六條 債券ニ關シ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ總テ地方長官ヲ經由スヘシ

第七條 本年六月三十日以前ニ債券ヲ發行シタル株式會社ハ第一條及第二條各號ノ事項ヲ詳具シ本年八月三十一日マテニ農商務大臣ニ届出ヘシ

○大藏省訓令第十二號

(明治二十八年三月二十八日)

北海道廳 府 縣

今般法律第十七號ヲ以テ改正相成候貯蓄銀行條例第四條ニ依リ供託スヘキ金額ハ貯蓄銀行ニ於テ何等ノ名稱ヲ用ユルモ其銀行ノ預金總高ニ基キ計算スル儀ト心得ヘシ
從前認可ヲ經タル貯蓄銀行ノ定款ニ營業科目ヲ記載セルモノハ法律ノ改正アルモ更ニ定款改正ノ認可ヲ經ルニアラサレハ其營業科目外ノ事業ヲ營ム能ハサル儀ト心得ヘシ

○大藏省訓令第二十一號

(明治二十八年五月廿七日)

北海道廳 府 縣

本年^三大藏省訓令第十二號ヲ以テ貯蓄銀行ニ於テ供託スヘキ金額ニ關シ及訓令候處右金額ハ複利ノ方法ヲ以テスル預金總高ニ基キ計算スル備ニ有之此旨更ニ訓令ス

○大藏省訓令第四十七號

(明治二十一年十二月四日)

北海道廳 府 縣

諸證書ニ押用スル印章ノ備ニ付客年十二月第六十八號ヲ以テ及訓令置候處今般日本銀行ヨリ請願ノ趣ニ據リ役印押用ノ備及認可候條爾今私立銀行及銀行類似會社ニ於テモ適宜役印ヲ押用セシメ若シカラス

○貯蓄銀行出張所代理店ニ關スル取扱手續

(明治二十六年十一月大藏省訓令第三十五號)

北海道廳 府 縣

一銀行又ハ貯蓄銀行ニ於テ出張所其他何等ノ名義ヲ用フルニ拘ハラヌ一定ノ場所ヲ設

ケ銀行又ハ貯蓄銀行事業ノ全部若クハ其一部ヲ營ムトキハ其場所ヲ支店ト見做シ銀行條例施行細則ニ依リ其手續ヲ爲サシムヘシ

一貯蓄銀行ニ於テ代理店ヲ設クトキハ契約書ヲ添ヘ届出ノ手續ヲ爲サシムヘシ

○登記届ニ關スル訓令

(明治二十七年六月大藏省訓令第三十八號)

北海道廳 府 縣

銀行事業ヲ營ム會社ニシテ登記ヲ受ケタルトキハ其事項及ヒ年月日ヲ届出サシムヘシ但既ニ登記ヲ受ケタルモノハ此際其登記事項及ヒ年月日ヲ届出サシムヘシ



○銀行會社ノ報告類ニシテ法律規則若クハ其定款ニ因リ廣告ヲ要スルモノハ自今官報ニ掲載ヲ請フコトヲ得(明治十八年八月府令)(政官布達第十八號)

銀行會社ノ報告類ニシテ法律規則若クハ其定款ニ因リ廣告ヲ要スルモノハ自今官報ニ掲載ヲ請フコトヲ得但其取扱手續ハ官報局長ヨリ公告スヘシ(明治十九年六月閣令)(第十八號ヲ以テ改正)

第二編 銀行設立手續

第一章 合名組織

合名會社ノ組織ヲ以テ銀行事業ヲ經營セントスル場合ニ於テハ如何ナル手續ニ依ルヘキカ之レ銀行條例施行細則第一條ノ明定セル所ニシテ宜シク左ノ書類ヲ具備シ銀行設立地ノ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘキモノトス

- 一 銀行營業出願書
- 二 參考書
- 三 會社契約書

銀行營業出願書ニ記載スヘキ要件左ノ如シ

- 一 營業科目
 - 二 資本金額
 - 三 存立時期(若シ期限ヲ定メサルトキハ記スルニ及ハス)
- 參考書ニハ左ノ事項ヲ記載スルモノトス

- 一 會社々名及營業所
 - 二 各社員ノ氏名
 - 三 開業セントスル年月日
 - 四 業務擔當社員ノ氏名及住所(若シ業務担當社員ヲ定メサルトキハ記スルニ及ハス)
 - 五 支店ノ場所及名稱(設置シタル場合ニ限ル)
- 今左ニ各書面ノ總形ヲ示シテ明瞭ナラシメン

雜形

○合名會社何々銀行營業出願書

私共備今般合名會社ノ組織ヲ以テ銀行ヲ設立シ銀行事業ヲ經營仕度候ニ付御認可被成下度銀行條例施行細則第一條ノ規定ニ從ヒ別紙會社契約書及參考書相添此段奉願候也

營業科目及資本金額並存立時期ハ左ノ如クニ御座候

一 營業科目

證券ノ割引及代金取立

爲替及荷爲替

請預金及貸付

右ノ外營業ノ都合ニ依リ左ノ事業ヲ爲スコトアルヘシ國債證券地方債證券其他有價證
券及地金銀ノ買賣

金銀貨貴金屬請證券等ノ保護預リ及兩替

二 資本金額

金何拾萬圓

三 存立時期

設立認可ノ日ヨリ滿何拾ノ年

明治 年 月 日

何縣何郡何村何番地

何 某印

何縣何郡何村何番地

何 某印

何縣何郡何村何番地

何 某印

何縣何郡何村何番地

何 某印

大藏大臣 何 某殿

○參考書

私共今般出願致候銀行營業ニ關スル參考ノ事項左ニ記載仕候

第一 會社ノ社名及營業所

合名會社何々銀行

何府何市何町何番地

第二 各社員ノ氏名

何 某
何 某
何 某
何 某

第三 開業セントスル年月日

明治何年何月何日

第四 業務擔當社員ノ氏名及住所(業務擔當社員ヲ特ニ定メサ
ルキハ此項記スルニ及ハス)

何 某

何府何市何町何番地

第五 支店ノ場所及名稱(附シ設置セサルハ
此項記スルニ及ハス)

何府何市何町何番地

何々支店

何府何市何町何番地

何々支店

右ノ通り相違無之候也

明治 年 月 日

右

何 某印
何 某印
何 某印
何 某印

○合名會社何々銀行契約書

印紙

第一章 總則

第一條 當銀行ハ合名會社組織トシ其社名ヲ合名會社何々銀行ト稱ス(社名ニ付テハ
後ニ詳述セン)

第二條 當銀行ハ明治二十三年法律第七十二號銀行條例ニ準據シ一般銀行事業ヲ經營
スルヲ以テ目的トス

何 某
何 某
何 某
何 某

第三 開業セントスル年月日

明治何年何月何日

第四 業務擔當社員ノ氏名及住所(業務擔當社員ヲ特ニ定メザルハ此項記スルニ及ハス)

何 某

何府何市何町何番地

第五 支店ノ場所及名額(支店ノ設置セザルハ此項記スルニ及ハス)

何府何市何町何番地

何々支店

何府何市何町何番地

何々支店

右ノ通り相違無之候也

明治 年 月 日

右

何 何 何 何
某 某 某 某
印 印 印 印

○合名會社何々銀行契約書

第一章 總則

印紙

第一條 當銀行ハ合名會社組織トシ其社名ヲ合名會社何々銀行ト稱ス(社名ニ付テハ後ニ詳述セン)

第二條 當銀行ハ明治二十三年法律第七十二號銀行條例ニ準據シ一般銀行事業ヲ經營スルヲ以テ目的トス

第三條 當銀行ハ其本店ヲ何府何市何村何番地ニ支店ヲ左ノ個所ニ設置シ尙ホ便宜必
要ノ地ニ支店若クハ出張所ヲ置ク

何府何市何村何番地

何々支店

何府何市何村何番地

何々支店

但シ當銀行ハ他店ト「ヨルレスボンデンス」ヲ締結スルコトヲ得

第四條 當銀行ノ存立時期ハ設立認可ノ日ヨリ滿何十ケ年トス

第五條 當銀行ニ於テ使用スル社印ハ左ノ如シ

本店印	一寸	合名會社	何々銀行	支店印	八分	合名會社	何々銀行
行之印	一寸	何々銀行	何々銀行	行之印	八分	何々銀行	何々銀行

第二章 實本金及各社員出資

第六條 當銀行ノ實本總額ハ金何十萬圓トス

各社員ノ出資額左ノ如シ

一金何萬圓	何	某
一金何萬圓	何	某
一金何萬圓	何	某
一金何萬圓	何	某

第三章 社員名簿

第七條 當銀行ハ社員名簿ヲ備ヘ之ニ左ノ事項ヲ記載ス

- 一 社員ノ氏名住所
- 二 各社員ノ出資額及拂込額
- 三 各社員ノ入社及退社ノ事由年月日
- 四 其他社員出資額及持分ノ異動

第四章 營業

第八條 當銀行ノ營業科目左ノ如シ

第一 證券ノ割引及代金取立

第二 爲替及荷爲替

第三 諸預金及貸付

右ノ外營業ノ都合ニ依リ左ノ事業ヲ爲スコトアルヘシ

第四 國債證券地方債證券其他有價證券及地金銀ノ買賣

第五 金銀貨貴金屬諸證券等ノ保藏預及兩替

第九條 當銀行ハ前條ニ掲クルモノ、外他ノ事業ニ從事セス

但シ左ニ記載スル物件ヲ引取り之ヲ所有シ又ハ之ヲ買取リ或ハ賣拂フハ此限リム
アラヌ

第一 營業上必要ナル地所建物什器

第二 債務辨濟ノ爲メ引渡サレタル動産不動産

第三 質又ハ抵當ニシテ裁判上公賣トナリタル動産不動産

第十條 當銀行ノ營業時間ハ毎日午前九時ヨリ午後四時迄トス

休業日ハ大祭日祝日及日曜日ニ限ル尤モ止ムヲ得サル事故アルトキハ臨時休業ヲナ

スコトヲ得但シ此場合ニ於テハ地方長官ニ届出テ豫シメ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ公
告スヘシ

第五章 社員議決權

第十一條 各社員ノ議決權ハ出資額ノ多寡ニ均ハラヌ平等均一ナリトス

第六章 社員權利義務

第十二條 各社員ハ當銀行ニ對シ正整ナル商人ノ自己ノ事務ニ於テナスト同シキ勉勵

注意ヲ爲ス義務アリ若シ此義務ニ背キ當銀行へ損害ヲ生セシメタルトキハ之ヲ賠償
スルコトヲ要ス

第十三條 各社員ハ設立認可後直チニ出資ヲ差入ルヘシ若シ差入レサルトキハ其社員
ヲ除名シ又ハ更ニ期日ヲ指定シ差入レヲ催告ス其孰レノ場合ニ於テモ之レカ爲メ生
シタル總テノ損害ヲ賠償セシム

但シ差入レヲ催告シタル場合ハ延滞日數ニ應シ百圓ニ付キ一日金四錢ノ割合ヲ以
テ遲延利息ヲ支拂ハシム

第十四條 社員其負擔シタル出資ヲ差入ル、一能ハサルハ總社員ノ承諾ヲ得テ他ノ出資ヲ差入ルヘシ若シ差入レサルハ當然其社員ヲ除名ス

第十五條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ自己ノ爲メニスルト他人ノ爲メニスルトニ拘ハラズ當銀行ノ業務ニ均シキ取引ヲナシ又ハ之ニ關與スルコトヲ得ス

第十六條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ其出資及會社財産中ノ持分ヲ減シ又ハ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ス

第十七條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ新タニ第三者ヲ入社セシメ又ハ第三者ヲシテ己レノ地位ニ代ハラシムルコトヲ得ス

第十八條 社員カ業務擔當ノ任ナクシテ業務擔當ノ所爲ヲ爲シ又ハ當銀行ニ對シテ存款ヲ行ヒ又ハ當銀行ニ對スル主要ノ債務ヲ欠キタルハ他ノ總社員ノ決議ヲ以テ之ヲ除名シ且ツ其損害ヲ賠償セシム

第十九條 社員未成年ナルハ後見人ヲシテ又法律上無能力者ト爲リタルハ財産管理人ヲシテ其權利ヲ行ヒ義務ヲ負ハシム

第二十條 社員當銀行ノ爲メニ受取リタル金銭ヲ相當時日内ニ當銀行ニ引渡サヌ又ハ之ヲ自己ノ用ニ供シタルハ當銀行ニ對シ百圓ニツキ一日金四錢ノ利息ヲ支拂ヒ且ツ總テ損害ヲ賠償セシム

第二十一條 社員當銀行ニ消費金ヲ爲シ又ハ當銀行ノ爲メ立替金ヲ爲シタルハ前條ノ割合ヲ以テ利息ヲ請求スルコトヲ得

第二十二條 各社員ハ契約負擔外ニ出資ヲ爲シ又ハ當銀行ノ損失ニ依リ減シタル資本ヲ補充スル義務ナシ

第二十三條 當銀行ノ損益ヲ共分スル割合ハ各社員ノ出資金額ニ準シ平等均一タルヘシ

第二十四條 社員ハ當銀行業務ノ實況ヲ監視シ諸般ノ帳簿書類ヲ検査シ且ツ此事ニ關シテ意見ヲ述フルコトヲ得

但シ業務擔當者ニアラサレハ當銀行ノ業務ヲ處理スルコトヲ得ス

第二十五條 當銀行ノ義務ニ付テハ先ツ銀行財産之ヲ負擔シ次ニ各社員其全財産ヲ以

ヲ連帶無限ニ之ヲ負擔ス

第七章 社員ノ入社及退社

第二十六條 本契約第十七條ニ依リ總社員ノ承諾ヲ得タル第三者ハ社員トナルコトヲ得

第二十七條 前條ニ依リ新タニ入社スル社員ハ特ニ契約ヲ爲サ、ルキハ入社前ニ於ケル當銀行ノ義務ニ付仍ホ責任ヲ負フ

第二十八條 社員死亡シタルキハ其權利義務ハ當然相續人ニ移辨スヘシ但シ業務擔當者タルノ權利ハ此限リニアラス

第二十九條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ退社スルコトヲ得ス

第三十條 社員除名セラレ又ハ破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ又ハ第三者ヲシテ已レノ地位ニ代ハラシメタルキハ當然退社スルモノトス

第三十一條 退社ノ社員ハ退社前ニ係ル當銀行ノ義務ニ付退社後二ケ年間仍ホ全財産ヲ以テ其責任ヲ負フ但シ第三者ヲシテ已レノ地位ニ代ハラシメタル場合ニ於テモ亦

本條ノ規定ヲ適用ス

第八章 業務擔當社員

第三十二條 總社員ノ互撰ヲ以テ業務擔當者一名ヲ撰任シ之ヲ頭取ト稱ス

第三十三條 業務擔當者ハ契約及社員會議ノ決議ニ從ヒ當銀行一切ノ業務施行ノ責任セシム

第三十四條 業務擔當者ノ任期ハ滿二ケ年トス

第三十五條 業務擔當者ノ辭任及解任ハ總社員ノ承諾ニ依ル

第三十六條 業務擔當者ハ代務ノ委任及解任ヲナスノ權利アリ

第九章 社員會議

第三十七條 社員會議ハ社員總幹ノ會議ニシテ何人ニ限ラス或ル社員ノ見込ヲ以テ必要ノ都度何時ニテモ之ヲ開クコトヲ得

第三十八條 社員事故アリテ社員會議ニ出席スルコト能ハサルトキハ委任狀ヲ以テ他ノ社員ニ代理セシメ議決權ヲ行フコトヲ得

第三十九條 當銀行ノ契約ニ於テ特ニ規定シタルモノヲ除ク外社員會議ノ議事ハ總社員ノ多數決ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條 社員會議ニ於テ議決シタル事項ハ議事録ニ筆記シ出席社員署名捺印シ當銀行ニ保存スヘシ

第十章 計 算

第四十一條 當銀行ハ毎年六月末十二月末ノ二期ヲ以テ諸勘定ヲ決算シ及次ノ半年間ノ收支ヲ豫算シ事業報告書ト共ニ社員會議ニ提出シテ社員ノ検査及認定ヲ受クヘシ

第四十二條 當銀行ノ損益計算ハ每期總益金ヨリ總損金ヲ引去リタル殘額ヲ純益金トシ此内ヨリ左ノ割合ヲ以テ積立金及役員賞與金ヲ引去リタル殘餘ヲ第二十三條ノ規定ニ依リ各社員ニ配當ス

- 一 積立金ハ純益金ノ百分ノ十五以上トス
- 一 役員賞與金ハ純益金ノ百分ノ十以下トス

第十一章 契約變更

第四十三條 當銀行ノ契約ハ總社員ノ一致決議ヲ以テ變更スルコトヲ得

但シ營業科目資本金額及存立時期ノ變更ニ付テハ大藏大臣ノ認可ヲ經ヘキモノトス

第十二章 解 散

第四十四條 當銀行ハ總社員ノ一致決議ヲ以テ解散スルコトヲ得

第四十五條 解散ハ決議ノ日ヲ以テ其初日トシ以後ハ既ニ始メタル取引ヲ完結シ又ハ現ニ存在スル義務ヲ履行シ未收ノ債權ヲ行用シ及解散ニ付テ必要ノ事務ヲ取扱フノ外一切ノ業務ヲ停止スヘシ

第四十六條 解散ノ決議ヲ爲シタルキハ同時ニ總社員ノ多數決ヲ以テ清算人ヲ撰定スヘシ

補 則

第四十七條 此他當銀行契約ニ規定ナキ者ニ付テハ商法及銀行條例并銀行條例施行細

則ノ成規ヲ適用ス

右契約締結ノ證トシテ各自署名捺印スルモノ也

明治年月日

何	何	何	何
某印	某印	某印	某印

以上ノ書類地方廳ヨリ大藏省ニ進達セルルハ大藏省ニ於テハ精密嚴格ニ之ヲ調査シ大藏大臣適當ト認ムルルハ「合名會社何々銀行ヲ設立シテ銀行事業ヲ營ムノ件認可ス」トノ認可書ヲ地方廳ヲ經由シ設立者ニ下付ス茲ニ於テ商法第七十九條ノ規定ニ從ヒ所轄裁判所ニ會社登記ノ申請ヲ爲シ其手續終了シテ始メテ事業ニ着手スルコトヲ得ルモノトス若シ大藏大臣ノ認可ヲ受ケス銀行事業ヲ經營シタハ商法第二百五十三條ニ依

社名

リ業務擔當ノ任アル社員ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處セラル、コトハ銀行條例第九條ノ明定セル所ニシテ尙ホ又會社ニ於テハ未タ其目的トスル銀行營業ノ認可ヲ受ケサルモノナルカ故全然無効ナリト云ハサルヘカラス之レ普通ノ合名會社ハ社員ニ於テ契約ヲ締結シ會社契約書ヲ作成スルト同時ニ會社設立ト成ルモノナリト雖モ銀行事業ヲ經營スルヲ目的トセル合名會社ハ大藏大臣ノ認可ヲ得テ始メテ會社設立ノ効ヲ有スルモノナルコトハ銀行條例施行細則第三條ノ解釋上然ラサル可カラサルモノナリ

終リニ茲ニ社名ノコトニ付テ一言セン社名ニ付テ法律ノ規定スル所ハ社員ノ一名若クハ數名ノ氏ヲ付シ且ツ會社ナル文字ヲ付スヘシ(商七五條)トアルノミニシテ此他何等ノ制限ナキヲ以テ此二條件ヲ附スル以上ハ如何ナル名稱ヲ選ムモ法律上隨意ナリト云ハサルヘカラス然レトモ銀行業ハ普通商業ニ比較シ幾分カ特種ノ業態ナルヲ以テ成ルヘク銀行ナル文字ヲ加入スルヲ以テ優レリト信ス例ヘハ合名會社三井銀行若クハ合名會社中井銀行ノ如キ何人ト雖モ其銀行業ヲ營ム會社ナルコトヲ知ルヲ得ヘシト雖モ合名會社佐藤金融會社(新潟)ノ如キ假ヒ金融ナル文字ヲ附シアルニモヒヨ確然銀行業ヲ

營ムモノナルヤ否ヤ疑ナキニアラス又合名會社小野商會(東京)ノ如キハ恐ラク何人ト雖凡其銀行業ヲ營ム會社タルコトヲ推知シ得サルヘシ故ニ法律上特ニ銀行ナル文字ヲ附スヘキ規定ナキニモセヨ銀行ナル文字ヲ附スルトキハ社會公衆ハ一見直チニ其銀行業ヲ經營スル會社ナルコトヲ知了シ得ルカ故一般ノ爲メ頗ル便宜ナルノミナラス會社ノ爲メニモ亦大ニ得策ナリト云ハサルヘカラス故ニ余ハ銀行業經營ノ會社ハ常ニ銀行ナル文字ヲ附スヘキモノトセルヲ希望シテ止マサルナリ

第二章 合資組織

合資會社ノ合名會社ト異ナルハ單ニ社員ノ責任如何ニアルモノニシテ其他ノ差異ハ皆ナ此一点ヨリ生スルノ結果タルニ外ナラス即チ合名會社ノ社員ハ連帶無限ノ責任ヲ負擔スルモ合資會社ノ社員ハ其責任出資額ニ止マルヲ以テ原則トシ無限ノ責任ヲ負擔スルハ契約上特別ニ其旨ヲ定メタル場合ニ限ル

右ノ如ク合資會社ト合名會社トノ根本上ノ差異タル各社員ノ責任如何ニ過キササルモノトセル以上ハ合資組織ヲ以テ銀行事業ヲ經營セントスル場合ノ手續ハ合名組織ヲ以テ

銀行事業ヲ經營セントスル場合ト大差アルヘキノ道理ナシ宜ナル哉銀行條例施行細則

第二條ニ於テ合資組織銀行ノ出願手續ヲ規定シアルヲ見レハ合名組織銀行ノ手續ト大

同小異タルニ過キス今左ニ出願手續ヲ掲ケン

- 一 銀行營業出願書
- 二 參考書
- 三 會社契約書

以上ノ書類ヲ完備シ銀行設立地ノ地方廳官ヲ經由シ大藏大臣ノ認可ヲ請フ可キモノナリ

銀行營業出願書ニ記載スヘキ要件ハ

- 一 營業科目
- 二 資本金額
- 三 存立時期(若シ時期ヲ定メサルハハ記スルニ及ハス)

參考書ニ記載スヘキ事項ハ

- 一 各社員ノ出資額
 - 二 會社ノ社名及ヒ營業所
 - 三 各社員ノ氏名
 - 四 開業セントスル年月日
 - 五 無限責任社員アルハ其氏名
 - 六 業務擔當社員ノ氏名及住所
 - 七 支店ノ場所及名稱(若シ設置セサルトキハ記スルニ及ハス)
- 依之觀之銀行營業出願書ニ記載ス可キ要件ハ合名組織ノ場合ト更ニ異ナラス
- 參考書ニ記載ス可キ事項ニシテ合名組織ノ場合ト純然異ナルハ(一)及(五)ノ二項ニシテ(六)モ又幾分ノ差異アルモ其他ハ總テ同一ナルヲ知ルヘシ如斯參考書記載事項中幾分ノ異ナル點アルハ之レ合資會社特有ノ性質ヨリ生スル自然ノ結果ナリト謂ハサル可カラズ今簡單ニ之レヲ説明ヲ爲サシ
- 合名會社々員ハ法律上當然無限責任ナルカ故ニ若シ會社財產ニシテ義務ヲ辨濟スルニ

合資會社
合名會社
無限責任
有限責任
社員ノ氏名
業務擔當
社員ノ氏名
住所

足ラサル場合ハ總社員舉テ連帶責任ヲ以テ其義務ヲ負擔スヘキモノナルカ故ニ敢テ各社員ノ出資額如何ヲ示スノ必要ナシト雖モ合資會社々員ハ反之其責任有限即チ自己ノ出資額以外ニ義務ヲ負擔セサルヲ以テ原則トスルモノナルカ故ニ隨テ各社員ノ出資額如何ヲ明記スルノ必要アリ之レ(一)ノ生スル所以ナリ次ニ(五)ヲ記載スル所以モ亦タ合資會社ト合名會社トノ性質異ナル點ヨリ生スル結果タルニ過キス即チ合名會社社員ハ總テ無限責任ナルカ故特ニ明記スルノ要ナシト雖モ合資會社々員ハ其責任有限ナルヲ原則トスルモノナルカ故社員中若シ無限責任ヲ負擔スルモノアルハ之レ特別ノ契約アル場合ニシテ例外ニ屬スレハ明記セサル可カラサルナリ又(六)ノ如キ合名會社ニ於テハ其社員總テ業務擔當ノ任アルモノニシテ特ニ業務擔當社員ヲ選定スヘキ法文ナケレハ之ヲ選定スルト否トハ社員ノ隨意ニ決定スルヲ得ヘキモノナルカ故其定メタル場合ノミニ限リ參考書ニ記載スヘキモノトセルモ合資會社ニ於テハ其社員總テ業務擔當ノ任アルモノニアラス必スチ其社員中ヨリ業務擔當スヘキ者ヲ選定セサル可カラサルカ故ニ本項如斯文圖ニ出テタルヤ推知スルヲ得可シ

令々合名會社ノ例ニ倣ヒ左ニ各書面ノ雛形ヲ示サン或ハ合資會社ハ以上陳スル如ク令名會社ト異ナル點僅々タルカ故ニ雛形ヲ舉示スルハ無益徒勞ノ觀ナキニアラスト雖モ合資會社ハ合資會社トシテ自ラ特種ノ點アルヲ以テ一見明瞭タラシメント欲セハ聲ロ明記スルヲ優レリトス之レ幾分重複ノ嫌アルニ拘ハラス例示スル所以ナリ

雛形

○合資會社何々銀行營業出願書

私共儀令般合資會社ノ組織ヲ以テ銀行ヲ設立シ銀行事業ヲ經營仕度候ニ付御認可被下度銀行條例施行細則第二條ノ規定ニ從ヒ別紙會社契約書及參考書相添此段奉願候也

營業科目及資本金額並存立時期ハ左ノ如クニ御座候

一 營業科目

證券ノ割引及代金取立

爲替及荷爲替

諸預金及貸付

右ノ外營業ノ都合ニ依リ左ノ事業ヲ爲スコトアルヘシ

國債證券地方債證券其他有價證券及地金銀ノ賣買金銀貨貴金屬諸證券等ノ保護預及

兩料

二 資本金額

金何拾萬圓

三 存立時期

設立認可ノ日ヨリ滿何拾箇年

明治年月日

何縣何市何町何番地

何 某印

何縣何市何町何番地

何 某印

何府何市何町何番地

何

某印

何府何市何町何番地

何

某印

大藏大臣 何

某殿

○参考書

私共機令般出脚致候銀行營業ニ關スル參考ノ事項左ニ記載仕リ候

第一 各社員ノ出資額

一金何萬圓

何

某

一金何萬圓

何

某

一金何萬圓

何

某

一金何萬圓

何

某

第二 會社ノ社名及營業所

合資會社何々銀行

何府何市何町何番地

第三 各社員ノ氏名

何 某

何 某

何 某

何 某

第四 開業セントスル年月日

明治何年何月何日

第五 無限責任社員ノ氏名(無限責任社員ナキトキハ此項ハ記スルニ及ハス)

何 某

第六 業務擔當社員ノ氏名及住所

何 某

何府何市何町何番地

第七 支店ノ場所及名稱(若シ支店ヲ設置セザルトキハ此項ハ記スルニ及ハス)

何府何市何町何番地

何府何市何町何番地

右ノ通り相違無之候也

明治年月日

右

何々支店
何々支店

何 何 何 何
某 某 某 某
印 印 印 印

一
印 紙

○合資會社何々銀行契約書

第一條 當銀行ハ合資會社組織トシ其社名ヲ合資會社何々銀行ト稱ス(社名ハ無限責任社員アル場合ニ限リ其社員ノ氏ヲ用ヒルコト得レド此他ノ場合ニ於テハ社名ニ氏ヲ用ユルコト得サルカ故隨意ニ適當ナル名ヲ當ラセ)

第二條 當銀行ハ明治二十三年法律第七拾貳號銀行條例ニ準據シ一般銀行事業ヲ經營スルヲ以テ目的トス

第三條 當銀行ハ其本店ヲ何府何市何町何番地ニ支店ヲ左ノ個所ニ設置シ尙ホ便宜必要ノ地ニ支店若クハ出張所ヲ設ク

何府何市何町何番地

何府何市何町何番地

何府何市何町何番地

但シ當銀行ハ他店ト「コレレスボンデンス」ヲ締結スルコトヲ得

第四條 當銀行ノ存立時期ハ設立認可ノ日ヨリ滿何十ケ年トス

第五條 當銀行ニ於テ使用スル社印左ノ如シ

一寸

合資會社
何々銀行
行之印

支店印

合資會社
何々銀行
何支店印

八分

第二章 資本金及各社員出資並責任

第六條 當銀行ノ資本總額ハ金何拾萬圓トス

各社員ノ出資額及責任左ノ如シ

- 一金何萬圓 有限責任 何 某
- 一金何萬圓 有限責任 何 某
- 一金何萬圓 有限責任 何 某
- 一金何萬圓 無限責任 何 某

(注意) 合資會社ハ普通有限責任社員ノヨリ以テ組織スルヲ以テ原則トシテ
 本行ニ加入シテ無限責任社員ト加入シタルコトヲ認領セルナリ

第三章 社員名簿

第七條 當銀行ハ社員名簿ヲ備ヘ之ニ左ノ事項ヲ記載ス

- 一 各社員ノ氏名住所
- 二 各社員ノ出資額及責任
- 三 各出資ニ付拂込額
- 四 各社員ノ入社及退社ノ事由年月日
- 五 其他社員出資額及持分ノ異動

第四章 營業

第八條 當銀行ノ營業科目左ノ如シ

- 第一 證券ノ割引及代金取立
- 第二 爲替及荷爲替
- 第三 諸預金及貸付
- 右ノ外營業ノ都合ニ依リ左ノ事業ヲ爲スコアルヘシ
- 第四 國債證券地方債證券其他有價證券及地金銀ノ賣買

第五 金銀貨貴金屬證券等ノ保護預及兩替

第九條 當銀行ハ前條ニ掲クルモノ、外他ノ事業ニ從事セス

但シ左ニ記載スル物件ヲ引取り之ヲ所有シ又ハ之ヲ買取リ或ハ賣拂フハ此限リニ
アラス

第一 營業上必要ナル地所建物及什器

第二 債務辨濟ノ爲メ引渡サレタル動産不動産

第三 質又ハ抵當ニシテ裁判上公賣トナリタル動産不動産

第十條 當銀行ノ營業時間ハ毎日午前九時ヨリ午後四時迄トス

休業日ハ大祭日祝日及日曜日ニ限ル尤モ止ムヲ得サル事故アルキハ臨時休業ヲ爲ス
ヲ得但シ此場合ニ於テハ地方長官ニ届出テ豫シメ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ公告ス
ヘシ

第五章 社員議決權

第十一條 各社員ノ議決權ハ出資額ノ多寡ニ拘ハラズ平等均一ナリトス

第六章 社員權利義務

第十二條 各社員ハ當銀行ニ對シ正整ナル商人ノ自己ノ事務ニ於テ爲スト同シキ勉勵
注意ヲ爲ズ義務アリ若此義務ニ背キ當銀行ヘ損害ヲ生セシメタルキハ之ヲ賠償スル
コトヲ要ス

第十三條 各社員ハ設立認可後直チニ出資ヲ差入ルヘシ若シ差入レサルキハ其社員ヲ
除名シ又ハ更ニ期日ヲ指定シ差入レヲ催告ス其就レノ場合ニ於テモ之レカ爲メ生シ
タル總テノ損害ヲ賠償セシム

但シ差入レヲ催告シタル場合ハ延滞日數ニ應シ百圓ニツキ一日金四錢ノ割合ヲ以
テ遅延利息ヲ支拂ハシム

第十四條 社員其負擔シタル出資ヲ差入ル、コト能ハサルキハ總社員四分ノ三以上ノ承
諾ヲ得テ他ノ出資ヲ差入ルヘシ若シ差入レサルキハ當然其社員ヲ除名ス

第十五條 業務擔當社員及無限責任社員ヲ除ク外其他ノ社員ハ總社員四分ノ三以上
ノ承諾ヲ得タルキハ自己ノ爲メニシ又ハ他人ノ爲メニスルヲ問ハス當銀行ノ業務ニ

均シキ取引ヲナシ又ハ之ニ關與スルコトヲ得

第十六條 業務擔當社員無限責任社員及總社員四分ノ三以上ノ承諾ヲ得サル社員ニシテ當銀行ノ業務ニ均シキ取引ヲ爲シ若クハ之ニ關與シタルハ商法第百四條ノ規定ニ從テ處分ス

第十七條 無限責任社員ハ總社員四分ノ三以上ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ其出資及會社財產中ノ持分ヲ減シ又ハ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ス

第十八條 有限責任社員ハ業務擔當社員ノ認可ヲ得タルハ其會社財產中ノ持分ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得

第十九條 社員未成年ナルハ後見人ヲシテ又法律上無能力者ト爲リタルハ財產管理人ヲシテ其權利ヲ行ヒ義務ヲ負ハシム

第二十條 社員當銀行ノ爲メ受取リタル金錢ヲ相當時日内ニ當銀行ニ引渡サヌ又ハ之ヲ自己ノ用ニ供シタルハ當銀行ニ對シ百圓ニ付キ一日金四錢ノ利息ヲ支拂ヒ且ツ總テノ損害ヲ賠償セシム

第二十一條 社員當銀行ニ消費貸ヲ爲シ又ハ當銀行ノ爲メ立替金ヲ爲シタルハ前條ノ割合ヲ以テ利息ヲ請求スルコトヲ得

第二十二條 各社員ハ契約負擔外ニ出資ヲ爲シ又ハ當銀行ノ損失ニ依リ減シタル資本ヲ補充スルノ義務ナシ

第二十三條 當銀行ノ損益ヲ共分スル割合ハ各社員ノ出資金額ニ準シ平等均一タルヘシ

第二十四條 社員ハ當銀行業務ノ實況ヲ監視シ諸般ノ帳簿書類ヲ検査シ且ツ此事ニ關シテ意見ヲ述フルコトヲ得

但シ業務擔當社員ニアラサレハ業務ヲ處理スルコトヲ得ス

第二十五條 當銀行ノ義務ニ付テハ先ツ銀行財產之ヲ負擔シ次ニ無限責任社員ノ全財產ヲ以テ辨償ス

第七章 社員ノ入社及退社

第二十六條 本契約第十七條及第十八條ニ依リ承諾又ハ認可ヲ經タル第三者ハ社員ト

爲ルコトヲ得

第二十七條 前條ニ依リ新タニ入社スル社員ハ特ニ契約ヲ爲サ、ルルハ入社前ニ於ケル當銀行ノ義務ニ付仍ホ責任ヲ負フ

第二十八條 社員死亡シタルルルハ其權利義務ハ當然相續人ニ移轉ス但シ業務擔當者タルノ權利ハ此限リニアラス

第二十九條 社員ハ總社員四分ノ三以上ノ承諾ヲ得タルルルハ退社スルコトヲ得

第三十條 社員除名セラレ又ハ破産若クハ家産分散ノ宣告ヲ受ケ又ハ第三者ニ自己ノ持分ヲ讓渡シタルトキハ當然退社スルモノトス

第三十一條 退社ノ社員ハ退社前ニ係ル當銀行ノ義務ニ付退社後ニケ年間仍ホ全財産ヲ以テ其責任ヲ負フ但シ第三者ニ自己ノ持分ヲ讓渡シタル場合ニ於テモ亦本條ノ規定ヲ適用ス

第八章 業務擔當社員

第三十二條 總社員四分ノ三以上ノ多數決ヲ以テ業務擔當者ニ名ヲ選任シ内一名ヲ頭

取ト稱ス

第三十三條 業務擔當者ノ任期ハ滿ニケ年トス

第三十四條 業務擔當者ハ契約及社員會議ノ議決ニ隨ヒ各別ニ(若クハ共同ニ)當銀行一切ノ業務ヲ施行スルノ權ヲ有ス

第三十五條 業務擔當者ノ辭任及解任ハ總社員四分ノ三以上ノ多數決ニ依ル

第三十六條 業務擔當者ハ代務ノ委任及解任ヲナスノ權利アリ

第三十七條 業務擔當者ハ其業務施行中ニ生シタル當銀行ノ義務ニ付連帶無限ノ責任ヲ負フ

但シ此責任ハ退任後ニケ年ノ滿了ニ依リ消滅ス

第三十八條 業務擔當者ニアラサル社員ニシテ業務擔當ノ所爲ヲナシ又ハ當銀行ニ對シテ詐欺ヲナシ若クハ當銀行ニ對スル主要ノ義務ヲ欠キタルルルハ總社員四分ノ三以上ノ決議ヲ以テ之ヲ除名シ且ツ其損害ヲ賠償セシム

第九章 社員會議

第三十九條 社員會議ハ社員總幹ノ會議ニシテ通常總會及臨時總會ノ二ニ分ツ

第四十條 通常總會ハ每營業年度ノ終リニ於テ總社員ヲ召集シ其年度ノ貸借對照表 財産目錄積立金利益金ノ配當案其他ノ計算書及事業並成果ノ報告書ヲ社員ニ提出シ
ヲ檢査及認定ヲ受ク可シ其檢査及認定ノ決議ハ出席社員ノ多數決ニ依ル

第四十一條 臨時總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲メ何時ニテモ業務擔當社員ニ於テ必要
ト認メタルハ又ハ總社員四分ノ一以上ノ社員ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ申立ツルハ之
ヲ召集ス

第四十二條 總會ヲ召集スルニハ其會日ヨリ少ナクトモ七日前ニ各社員ニ會議ノ目的
事項開會ノ日時場所ヲ通知シ且ツ提出スヘキ書類ヲ送付シテ議決ノ準備ニ供スベシ
第四十三條 臨時總會ニ於テ議スヘキ事項ハ別段ノ定メアルモノ、外總社員ノ過半數
ヲ以テ之ヲ決ス

第四十四條 議決ニ要スル定數ノ社員出席セサルハ其總會ニ於テ假リニ決議ヲ爲ス
コト得此場合ニ於テハ其決議ノ結果ヲ總社員ニ通知シテ再ヒ總會ヲ召集スヘシ其通

知書ニハ若シ第二ノ總會ニ於テ出席社員ノ如何ニ拘ハラス其多數ヲ以テ第一總會ノ
決議ヲ認可シタルハ之ヲ有効トナス可キ旨ヲ明告スルコトヲ要ス

第四十五條 總會ノ議長ハ頭取之ニ任ス

第四十六條 總會ノ議事ハ之ヲ筆記シ出席社員署名捺印シテ當銀行ニ保存ス

第十章 營業年度及計算

第四十七條 當銀行ノ營業年度ハ毎年一月一日ヨリ六月三十日ニ至ル迄ノ上半季トシ
七月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル迄ヲ下半季トシ毎年二回決算ス

第四十八條 當銀行ノ損益計算ハ每期總益金ヨリ總損金引去リタル殘額ヲ純益金トシ
此内ヨリ左ノ割合ヲ以テ積立金及役員賞與金ヲ引去リタル殘餘ヲ第二十三條ノ標準
ニ依リ各社員ニ配當ス

一 積立金ハ純益金ノ百分ノ十五以上トス
二 役員賞與金ハ純益ノ百分ノ十以下トス

第十一章 契約變更

第四十九條 當銀行ノ契約ハ總社員四分ノ三以上ノ承諾アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

但シ營業科目資本金額及存立時期ノ變更ニ付テハ大藏大臣ノ認可ヲ經ヘキモノトス

第十二章 解散

第五十條 當銀行ハ總社員四分ノ三以上ノ多數決ヲ以テ解散スルコトヲ得

第五十一條 解散ハ決議ノ日ヲ以テ其初日トシ以後ハ既ニ始メタル取引ヲ完結シ又ハ

現ニ存在スル義務ヲ履行シ未收ノ債權ヲ行用シ及解散ニ付テ必要ナル事務ヲ取扱フノ外一切ノ業務ヲ停止スヘシ

第五十二條 解散ノ決議ヲ爲シタルキハ同時ニ總社員多數決ヲ以テ清算人ヲ選定スヘシ

補則

第五十三條 此他當銀行契約ニ規定ナキモノニ付テハ商法及銀行條例并銀行條例施行

細則ノ成規ヲ適用ス

右契約締結ノ際トシテ各自署名捺印スルモノナリ

明治 年 月 日

何 某印
何 某印
何 某印
何 某印

以上ノ書類ヲ作成シ銀行設立地ノ地方廳ニ提出スヘシ地方廳ハ之ヲ大藏大臣ニ進達ス大藏大臣適當ト認ムルキハ合名會社ト同一ナル認可書ヲ地方廳ヲ經テ設立者ニ下付ス設立者ニ於テ右認可書ヲ領受シタルキハ商法第三百二十七條ノ規定ニ依リ同第七十八條ヲ適用シ第三百三十八條ニ掲クル事項ノ登記ヲ所轄裁判所ニ申請シ其手續完了シテ事業ニ着手スルヲ得ルモノトス大藏大臣ノ認可ヲ受ケスシテ營業シタル場合ニ於ケル制裁ハ前ニ合名會社ノ部ニ於テ

設法シタル所ト爲ナルナキヲ以テ省察ス

第三章 株式組織

合名會社ト云ヒ合名會社ト云ヒ共ニ學者ノ所謂持分會社タルニ過キサレハ其異ナル點僅少ニシテ隨テ合名組織ヲ以テ銀行營業ヲ出願スル場合ト合資組織ヲ以テ出願スル場合ノ手續殆ント同一ナルコトハ前章ニ於テ詳述シタリ然ルニ株式會社ハ其性質全然相反スルカ故從テ株式組織ヲ以テ成立セントスル場合ニ於ケル手續大差ナカラサル可カラヌ之レ株式會社ハ直ニ設立ニ着手シ營業認可ヲ請フコト能ハス、第一發起手續ヲ經、第二設立手續、ニ着手スルモノトス今左ニ節ヲ別ナテ説述セン

第一節 發起手續

株式組織ヲ以テ銀行事業ヲ經營セントスル場合ニ於ケル手續ハ銀行條例施行細則第七條ニ規定セル如ク先ツ第一ニ發起ノ手續ヲ經テ發起認可ヲ請ハサルヘカラス其發起認可ヲ請フノ手續タル宜シク左ノ書類ヲ具備シ銀行設立地ノ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘキモノトス

一 設立發起認可願

二 目論見書(發起人ハ四名以上ニシテ)

三 假定款

大藏大臣ハ右書類ノ完備シ適當ナルモノト認ムルハ「株式會社何々銀行目論見書及假定款ヲ審查シ其發起ヲ認可ス」トノ認可書ヲ地方長官ヲ經テ發起人ニ下付ス今左ニ各書類ノ體形ヲ例示セン

體形

○株式會社何々銀行設立發起認可願

私共備今般商法及銀行條例ヲ遵奉シ株式會社何々銀行ヲ設立シ銀行事業經營仕度候ニ付發起認可被成下度銀行條例施行細則第七條ノ規定ニ依リ別冊目論見書及ヒ假定款相添ヘ此段奉願候也

明治 年 月 日

株式會社何々銀行設立發起人

附録シタル所ト爲ナルナキヲ以テ省署ス

第三章 株式組織

合名會社ト云ヒ合名會社ト云ヒ共ニ學者ノ所謂持分會社タルニ過キサレハ其異ナル點僅少ニシテ隨テ合名組織ヲ以テ銀行營業ヲ出願スル場合ト合資組織ヲ以テ出願スル場合ノ手續殆ント同一ナルコトハ前章ニ於テ詳述シタリ然ルニ株式會社ハ其性質全然相反スルカ故從テ株式組織ヲ以テ成立セントスル場合ニ於ケル手續大差ナカラサル可カラズ之レ株式會社ハ直チニ設立ニ着手シ營業認可ヲ請フコト能ハス、第一發起手續ヲ經、第二設立手續、ニ着手スルモノトス今左ニ節ヲ別チテ詳述セン

第一節 發起手續

株式組織ヲ以テ銀行事業ヲ經營セントスル場合ニ於ケル手續ハ銀行條例施行細則第七條ニ規定セル如ク先ツ第一ニ發起ノ手續ヲ經テ發起認可ヲ請ハサルヘカラス其發起認可ヲ請フノ手續タル宜シク左ノ書類ヲ具備シ銀行設立地ノ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘキモノトス

一 設立發起認可願

二 目論見書(發起人ハ四名以上ニシテ署名捺印セルコトヲ要ス)

三 假定款

大藏大臣ハ右書類ノ完備シ適當ナルモノト認ムルハ「株式會社何々銀行目論見書及假定款ヲ審査シ其發起ヲ認可ス」トノ認可書ヲ地方長官ヲ經テ發起人ニ下付ス今左ニ各書類ノ體形ヲ例示セン

體形

○株式會社何々銀行設立發起認可願

私共備今般商法及銀行條例ヲ遵奉シ株式會社何々銀行ヲ設立シ銀行事業經營仕度候ニ付發起御認可被成下度銀行條例施行細則第七條ノ規定ニ依リ別冊目論見書及ヒ假定款相添ヘ此段奉願候也

明治 年 月 日

株式會社何々銀行設立發起人

何府何市何町何番地

何

某印

何府何市何町何番地

何

某印

何府何市何町何番地

何

某印

何府何市何町何番地

何

某印

大藏大臣 何 某股

○株式會社何々銀行設立目録見書

第壹 當銀行ハ資本ヲ株式ニ分チ其義務ニ對シテハ銀行財産ノミ責任ヲ負フモノトス

第貳 當銀行ハ明治二十三年法律第七拾貳號銀行條例ニ準據シ證券ノ割引、爲替事

業、并諸預リ及貸付等ノ銀行事業ヲ經營スルヲ以テ目的トス

第參 當銀行ハ株式會社何々銀行ト稱シ本店ヲ何府何市何町何番地支店ヲ何府何市何町何番地及何府何市何町何番地ノ二個所ニ設置ス

第四 當銀行ノ資本金額ハ何拾萬圓ニシテ其株式ヲ何千株トシ一株ノ金額ヲ金何十圓トス

第五 當銀行資本使用ノ概算左ノ如シ

一金何萬圓

諸貸付金

此收益一ケ年何分即チ何千圓ノ見込

一金何萬圓

證券割引

此收益一ケ年何分即チ何千圓ノ見込

一金何萬圓

爲替事業

此收益一ケ年何分即チ何千圓ノ見込

一金何千圓

營業用地所家屋什器

合計金何拾萬圓

此一箇年收益金見込何千圓

内

一箇年諸經費算何百圓

差引純益金算何千何百圓

但シ資本ニ對シ年何分何厘ノ割

第六 當銀行發起人ノ氏名住所及其引受株數左ノ如シ

何府何郡何村何番地

何百株 此金何千圓

何府何郡何村何番地

何百株 此金何千圓

何府何郡何村何番地

何十株 此金何百圓

何

某

何十株 此金何百圓

何府何郡何村何番地

何

某

合計何百何十株 合計何千何百圓

合計何人

第七 當銀行ノ存立時期ハ設立認可ノ日ヨリ滿何十ケ年トス

右ハ明治年月日發起人ニ於テ之ヲ決定シ茲ニ各自署名捺印スルモノナリ

株式會社何々銀行設立發起人

何

某印

何

某印

何

某印

何

某印

○株式會社何々銀行假定款

第一條 當銀行ハ明治二十三年法律第七拾貳號銀行條例ニ準據シ銀行事業ヲ經營スルヲ以テ目的トス

第二條 當銀行ハ資本ヲ株式ニ分テ其義務ニ對シテハ銀行財産ノミ責任ヲ負フモノトス

第三條 當銀行ハ株式會社何々銀行ト稱シ本店ヲ何縣何市何町何番地ニ支店ヲ何縣何市何町何番地及何縣何市何町何番地ノ二ヶ所ニ設置シ尙ホ營業ノ都合ニ依リ漸次樞要ノ地ニ支店若クハ出張所ヲ置クコトアルヘシ

又當銀行ハ他店ト「コレレスボンデンス」ヲ締結スルコトヲ得

第四條 當銀行ノ資本金額ハ何十萬圓トス

第五條 當銀行ノ存立時期ハ設立免許ノ日ヨリ滿何十年トス

第六條 當銀行ニ於テ使用スル社印左ノ如シ

一寸

八分

本店印
株式會社
何々銀行
銀行印

支店印
株式會社
何々銀行
何支店印

第二章 株式

第七條 當銀行ノ株式ハ何千株トシ一株ノ金額ヲ何十圓トス(資本十萬圓以上ノ銀行ナルハ一株ノ金額五十圓ヲ下ルコトヲ得ス但シ資本十萬圓以下ノ銀行ニハ一株二十圓以下トシ一七五條)

第八條 當銀行ノ株主ハ日本國民ニシテ當銀行定款ヲ遵守シ其引受株式ヲ株主名簿ニ登錄ヲ受ケタルモノニ限ル

第九條 株金拂込ノ割合左ノ如シ

第一回 金何萬圓

資本金高ノ四分ノ一
一株ニ付金何十圓何十錢

但シ銀行設立ノ免許ヲ得タルキ取締役ノ通知ニ依リ直チニ拂込ムモノトス

第二回

以後ハ株主總會(取締役會トナスモ可ナリ)ノ決議ニ依リ漸次拂

込ムモノトス(第二回以後ノ拂込金及拂込日ヲ確定シ置クヲ得ルハ勿論ナリ雖モ銀行ノ如キハ金納ルニ最初ヨリ拂込金及明日ヲ確定シ置クヲ得ルハ勿論ナリ)
手續ヲ簡サシムルヘカラス故ニ第二回以後ニ付テハ株主總會若クハ取締役會ノ決議ニ依リ隨時拂込ヲ必要トセザルニシテマシムルコトヲ定款中規定シ置カサルヲ便宜ナリト信ス然シテ拂込ヲ爲シタルキハ其旨兼出ツレハ足レリトス)

但シ其拂込金額ハ一回毎ニ一株ニ付金何圓以下(第一回ノ場合ノ如ク一株ノ金額四分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス等ノ制限ナキヲ以テ)

總子ト定ムルトシ其拂込期日ハ少ナクモ十四日以前ニ各株主ヘ通知スヘシ且
ツ其通知ニハ拂込ミヲ爲ササル爲メ株主ノ被フルヘキ損失ヲ併示ス

第十條 株金第一回ノ拂込ミニ對シテハ領收證書ヲ交付シ追テ登記ヲ受ケタル上假
株券ト引換フルモノトス

第十一條 當銀行ノ株券ハ一株毎ニ株券一通ヲ作ルモノトス
(株券ハ二株ノ金額ヲ合シテ一通トシ又ハ三株若クハ四株ノ金額ヲ合シテ一通ヲ作ルモノトス)
(モアラズシテ單ニ株券數ヲ合スルニシテキヤレハナリ)

但シ株金全額拂込前ニ在テハ假株券ヲ發行シ全額拂込ノ後本株券ト引換フルモノトス

第十二條 當銀行ノ假株券及本株券ノ雛形左ノ如シ

第 一 號

株式會社何々銀行假株券

一 金 何 拾 圓 也

何 々 誰 殿

印 紙

面 表

拂込金	額	年	月	日	領收印
一回		明治	年	月	日
二回		明治	年	月	日
三回		明治	年	月	日
四回		明治	年	月	日
五回		明治	年	月	日

明治廿三年法律第七十二號銀行條例ヲ遵奉シ且ツ當銀行ノ定款
ヲ遵守シ資本金ノ内金何拾圓即チ一株ノ持主タルヲ相違ナキ證
據トシテ此假株券ヲ附與ス追テ全額入金ノ上本株券ハ此假株券
ト引換ヘ付與スヘシ

但シ此假株券ヲ對買讓與セントセハ當銀行ヘ持參シ裏面ヘ頭
取支配人ノ署名捺印ヲ受クヘシ

年月日

株式會社何々銀行

頭 取 何 某 印

取 締 役 何 某 印

全 何 某 印

支 配 人 何 某 印

社 印